

令和3年度 研究紀要

主体的・対話的で深い学びを実現する  
保育の振り返りと実践のあり方  
— 3年次 —



高知大学教育学部附属幼稚園

## はじめに

教育・研究園である本園では、「たくましい心と体を持ち、根気よくやり遂げる子ども」「好奇心や探求心を持ち、よく考え、のびのびと表現する子ども」を目指す子ども像に掲げ、教職員が力を合わせて幼児教育・保育に努めています。

すでに2年が過ぎようとしているコロナ禍による不安が続くなかで、本園では「主体的・対話的で深い学びを実現する保育の振り返りと実践のあり方（3年次）」という研究課題のもと、今年度も引き続き使命感をもって研究を進めてまいりました。

昨年度は「主体的・対話的で深い学びを実現する保育の振り返りと実践のあり方（2年次）」として「主体的・対話的で深い学び」とはどのような姿を指すのか、また「主体的・対話的で深い学び」につながる環境構成や援助とは何かを探り、仮説を立てたうえで行った撮影記録をもとに客観的に振り返り、協議と検討を重ねました。

研究の最終年度である今年度は、1年次より継続的に行っている「記録、週日案、研究保育、ドキュメンテーション、月別指導計画」の振り返りによる保育のブラッシュアップに加えて、「主体的・対話的で深い学び」につながる環境構成や援助を含めて「幼児の学び」について明らかにしたいと考えました。今年度については「集団活動」を撮影して振り返り、新たな分析シートを用いることにより考察を深めました。また、昨年度再編成した教育課程の改善にも取り組み、一定の成果を得ました。

なお、公開研究会につきましてはコロナ禍の中、昨年引き続き動画配信とさせていただきました。鼎談には、講師に全国幼児教育研究協会顧問の岡上直子先生をお迎えし、本園勤務2年目の教員と副園長との3人で行いました。座談会には、昨年引き続き名古屋学芸大学ヒューマンケア学部子どもケア学科教授の津金美智子先生と、今年度は國學院大學人間開発学部子ども支援学科教授の鈴木みゆき先生、國學院大學人間開発学部初等教育学科教授の田村学先生を加えた3名の先生方をお迎えして行っております。

全国的に対面での研究会がもちにくく、Webによる公開研究発表やZoomなどによる参加型の発表会增加しております。配信による研究会のメリットとしては、全国の情報発信をリアルタイムやオンデマンドで見られるという点や、議論が活発に行われるという点が挙げられます。実際の保育現場で一堂に会して研究会をする日を待ち望みつつも、この紀要が今後の研究の活性化につながることを期待しております。

最後になりましたが、本研究にあたり、お世話になりました教育学部の先生方をはじめ、多くの先生方のご指導、ご助言をいただきましたことに深く感謝申し上げます。

令和4年2月

高知大学教育学部附属幼稚園  
園長 宮田 信司

# 目 次

## はじめに

I	研究の動機	1
II	研究の経過	3
III	研究の方法	4
IV	研究内容 1	7
	3歳児クラス もも組研究事例 「チョウチョさんと遊ぼう」	7
	4歳児クラス うめ組研究事例 「動物のイメージで体を動かそう」	13
	5歳児クラス はと組研究事例 「割りピンを使った動物作り」	19
	5歳児クラス さくら組研究事例 「リレー遊び」	25
V	研究内容 2	
	ドキュメンテーションの取り組み	30
VI	研究内容 3	
	教育課程の改善	36
VII	研究のまとめと今後に向けて	45
	参考資料	
	本園の考える主体的・対話的で深い学び	50

# I 研究の動機

## 1 年次～2 年次

本園では2019年度より、「主体的・対話的で深い学びを実現する保育の振り返りと実践のあり方」をテーマに研究を進めている。新幼稚園教育要領により、計画的に教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントの確立が求められており、本園でも教育課程をもとに実施・評価・改善といったカリキュラム・マネジメントを行うなかで、保育の質の向上を図っている。

1年次は、保育の「振り返り」に視点をあてた。記録、週日案、研究保育、ドキュメンテーション、月別指導計画を振り返り、保育のブラッシュアップに取り組んだ。その成果として、事実を正確に捉えたうえで、子どもの内面を理解することが保育の出発点であることを繰り返し学べたこと、保育の計画→実践→評価→改善といったカリキュラム・マネジメントのPDCAサイクルを組織的に回すようになったことが挙げられる。

2年次は1年次の研究を土台として、保育場面を録画した動画を用いて、「主体的・対話的で深い学び」につながった環境構成や援助とは何かについて分析したり、協議を行ったりし、振り返りを深めることで保育の質の向上につなげたいと考えた。結果、子どもの内面をより正確に捉えようとするようになったことなどが成果であった。

また、2年次は5領域から教育課程の再編成、教育目標、目指す子ども像の見直しを行った。教育課程を見直したことで、カリキュラム・マネジメントが行いやすくなったと同時に、「子ども達にこのような力を養いたい」という願いが教員間でより明確になったことも成果である。一方、課題としては、「主体的・対話的で深い学び」に視点をあて研究に臨んだが、「主体的・対話的で深い学び」につながる環境構成や援助については、十分な分析まで至らなかったことが挙げられる。

## 3 年次

研究の最終年度である3年次は、2年次の課題であった「主体的・対話的で深い学び」につながる環境構成や援助と、「幼児の学び」について明らかにしたいと考えている。また「主体的・対話的で深い学び」を実現するには、どのような振り返り方が有効かについても考えていきたい。

本園では、子どもが興味をもった環境（モノ・人・事）に自ら関わり、自己充実させる「好きな遊び」の時間と、教師が設定した活動に話を聞いて理解して取り組み、自分の力を高める「集団活動（※1）」の時間があり、2年次である昨年度は、「好きな遊び」を切り口に振り返りを行った。今年度は、教育活動として位置づけ毎日行っている「集団活動」を振り返ることで、「主体的・対話的で深い学び」につながる環境構成や援助について、明らかにしたいと考えている。

全員で行う「集団活動」は、子どもが自ら選ぶ遊びのなかでは得られにくい経験を補完するものとして、また集団で活動するからこそ経験できる育ちを期待して行っている。しかし、本園では集団活動の内容について、なぜこの教材を選んだのか、何を経験させたいのか、どのように教材を工夫しているのかなどについて研究として取り組むことがなかった。近年、教材研究の必要性が問われており、あらかじめ教材のもつ特質や特性をよく理解し、幼児の遊び方や関わり方に即して予測をもち、子どもの活動をどう広げ深めていくのか、教材のもつ教育的な可能性を広く捉えておくことが大事であるとされている。

3年次では、「集団活動」を振り返るなかで教材の工夫について考察を深め、「主体的・対話的で深

い学び」につながる環境構成や援助を明らかにしたいと考える。

また、今年度は昨年度再編成した教育課程に「子どもの姿」を加えるなどの改善を行い、1年次から継続的に取り組んでいる月別指導計画、記録、日案に生かしていきたい。同様に取り組んできたドキュメンテーションについても、その成果や課題を明らかにし、今後につなげたい。このことについては5章以下に示す。

※1 集団活動…製作遊びや運動遊び、表現遊び等、学級または学年ごとに集団で行っている活動。  
月・金曜日は製作遊びなど、曜日ごとに行う内容を決めている。

## Ⅱ 研究の経過

○…研究テーマ・研究保育に関するもの

☆…月別指導計画の見直し、修正

★…教育課程の改善

月	研究内容
4 月	○研究テーマ・研究方法について ○年長さくら組研究保育
5 月	○年長はと組研究保育 ☆4月月別指導計画の修正・見直し
6 月	○年中うめ組研究保育 ○年中うさぎ組研究保育 ・幼児教育研究協議会2期に向けた協議 ☆5月月別指導計画の修正・見直し
7 月	☆6月月別指導計画の修正・見直し ・幼児教育研究協議会2期に向けた協議
8 月	○2学期の集団活動についての協議 ☆7月月別指導計画の修正・見直し
9 月	○年少もも組研究保育
10 月	○年長さくら組研究保育 ☆9月月別指導計画の修正・見直し ★教育課程の改善
11 月	○年中うめ組分析シートによる協議 ○年長はと組分析シートによる協議 ☆10月月別指導計画の修正・見直し ★教育課程の改善
12 月	○分析シート修正後における考察・研究の成果と課題 ☆11月月別指導計画の修正・見直し ★教育課程の改善

### Ⅲ 研究の方法

#### (1) 研究保育（ビデオ撮影）

今年度は、集団活動を中心に据え、「主体的・対話的で深い学び」につながる環境構成や援助について振り返るため、研究保育では、集団活動の様子をビデオカメラで撮影し、協議で活用した。集団活動で重要となる導入の場面は、教師の言動と子どもの姿の両方が記録できるように2台のビデオカメラで録画した。また、集団活動の中で子ども達がどのような教材や場の構成、教師の関わりに心を動かし、「主体的・対話的で深い学び」を得ているのかを探るため、抽出児を決めて撮影することとした。抽出児は、集団活動の内容が得意な子どもとそうでない子どもを1名ずつ設定するなどした。

#### (2) 分析シートの視点の変更（子どもの内面をより理解するために）

昨年度の研究では、保育場面の動画およびあらかじめ記入した分析シート〈表①〉を用いた研究協議を行った。その際、「主体的・対話的で深い学びと思った子どもの姿（事実）」をまず記載し、次に「主体的・対話的で深い学びと捉えた理由」を記載する分析シートであったため、教師が子どもの思いをどのように捉えていたのか、あるいはどのような思いだったのかなど、子どもが何に心を動かし、自ら行動していたのかが捉えづらい様式であった。

〈表①〉

2020年 月 日 歳児クラス 組『 』			
主体的・対話的で深い学びと思った子どもの姿（事実）	主体的・対話的で深い学びと捉えた理由	主体的・対話的で深い学びにつながった環境構成や援助	主体的・対話的で深い学びにつなげるための手立て

そこで、本年度は、分析シートを〈表②〉のように改訂し、子どもの内言語に着目しながら分析することとした。

〈表②〉

2021年 月 日 歳児クラス 組『 』			
子どもの姿	内言語	内言語につながった環境構成と援助	主体的・対話的で深い学びにつなげる環境構成と援助
A	B	C	D

#### A 子どもの姿

映像を視聴しながら、協議の中心となった場面でのA児を含む子どもの「言葉・動作・手先の動き・表情・視線など」といった事実を、子どもの姿として詳しく書き留める。

#### B 内言語

言葉としては表さないが、子どもが心の中で発しているであろう言葉（心の中での自分との対話）を、表情や動作などから読みとり、心の中で表す言語、「内言語」として記載する。

#### C 内言語につながった環境構成と援助

子どもが心の中で発した言葉は、どのようなモノや場、雰囲気といった環境構成や教師の援助によるものなのかについて、具体的に記載する。

#### D より主体的・対話的で深い学びにつなげる環境構成と援助

Cでの環境構成と援助をふまえて、他にどのような環境構成や援助があればより「主体的・対話的で深い学び」につなげていけるのかについて具体的に記載する。

### (3) 協議による振り返り

今年度は、研究保育を行った後に動画を用いた研究協議を行うこととした。

《協議の手順①》※KJ法を用いる

- 1、研究保育で抽出児2名の姿を記録し、内言語を考える。
- 2、1の記録を基に、中心的に協議を進めていく抽出児を決める。
- 3、「主体的・対話的で深い学び」を得ていると思われる姿と内言語を付せんに書き、模造紙上に時系列で整理する。
- 4、討議になった場面を動画で確認する。
- 5、内言語につながった環境構成や援助を考える。
- 6、主体的・対話的で深い学びにつながる環境構成と援助を考える。

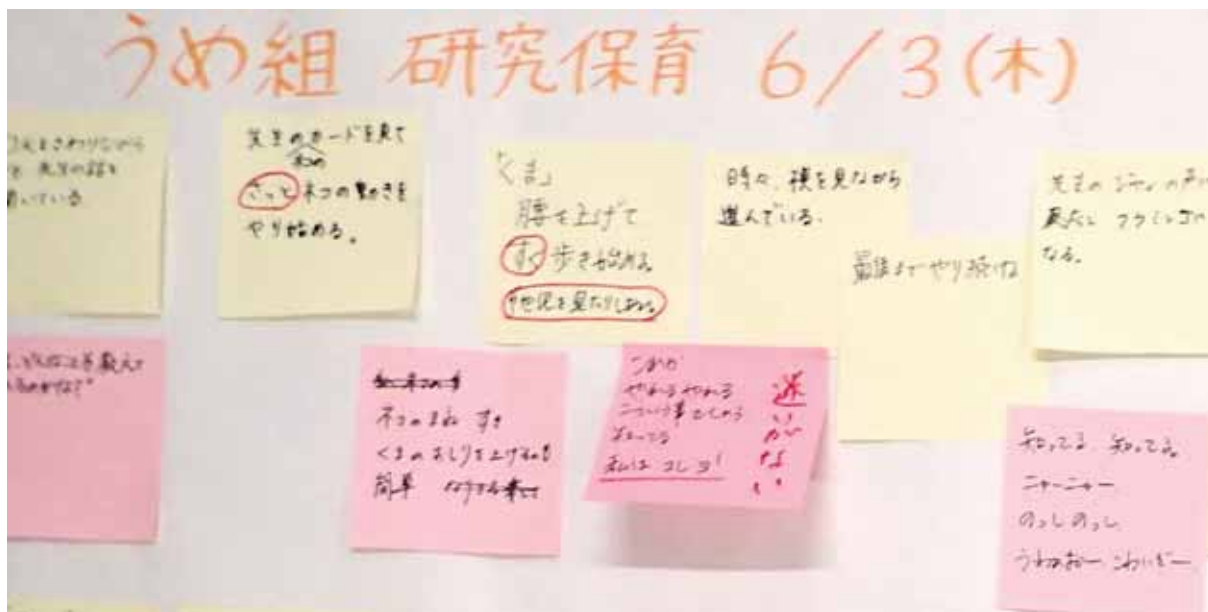
上記の協議の手順①では記憶に頼り曖昧なところも出てくるため、以下のように変更した。

《協議の手順②》

- 1、協議の中心となる場面10分～15分を決める（限られた時間内で協議を行うため）。
- 2、全員で抽出した場面を数分ごとに視聴し、役割分担しながら付せんに抽出児の姿を書き出す。
- 3、「子どもの姿」ごとに全員が「内言語」を付せんに記載し、出し合う。〈写真①〉
- 4、「内言語につながった環境構成と援助」や「主体的・対話的で深い学びにつなげる環境構成と援助」について話し合う。



〈写真①〉黄色の付せん…子どもの姿　ピンクの付せん…内言語



#### (4) 分析シートによる振り返り

研究保育を行った教員は、②の協議を基に撮影した動画から、分析シートへ自身の考えも入れながら子どもの姿を詳しく書き起こす（協議の中心となった場面）。次に「内言語」や「内言語につながった環境構成と援助」また「主体的・対話的で深い学びにつなげる環境構成と援助」を自分なりに分析シートに記載する。記載した分析シートを基に、研究協議を行う。

## IV 研究内容 1

3 歳児クラス もも組研究事例 「チョウチョさんと遊ぼう」

4 歳児クラス うめ組研究事例 「動物のイメージで体を動かそう」

5 歳児クラス はと組研究事例 「割りピンを使った動物作り」

5 歳児クラス さくら組研究事例 「リレー遊び」

※各事例を記載した担任が、自身の保育の振り返りにつながる工夫も行いながら作成しているため、記載方法が少し異なっている部分がある。

※文中の（〈イ〉 試行錯誤・繰り返す、【主-2】）等は本園の考える主体的、対話的で深い学び（p 50）

## 2021年9月7日（火）3歳児クラスもも組「チョウチョさんと遊ぼう」

1学期から、学級の集団活動で、様々な製作遊びを行ってきた。製作遊びでは、ハサミで2cm幅程度の画用紙を切って食材に見立てて遊んだり、半分（長方形）に折った色紙の折り目を切って好きなものに見立てて遊んだりしてきた。いずれも、製作遊びの面白さに気付くとともに、ハサミの有用性を知ったり、ハサミの使い方を習熟したりすることをねらって行ってきた。

今回は、子ども達が大好きなチョウチョを作る楽しさ、作ったチョウチョで遊ぶ面白さを経験してほしいと願い、集団活動に取り入れた。想像の世界を楽しむことができる子ども達が、チョウチョを作りたくなるように、「(教師が連れてきた)チョウチョさんの友達を作ろう」と子ども達を誘い、一通り作り方を説明した。1つつつ順番に説明していく計画だったが、説明の後、紙を配り終えた時点で、すでにハサミで切っていたり、できあがったりしている子どももいて、製作の進捗が大幅に異なっていた。教師は三角に折って、切るところだけ実演した後、次からの説明は行わず、2名の保育補助員の力を借りながら「できん」と困っている子どもや何もせずじっとしている子どもに作り方を教えながら、製作を進めた。

### ねらい（○）・内容（■）

○色紙に手を加えると、いろいろな物ができることを知り、自分の好きな物を作ったり、作った物で遊んだりすることを楽しむ。

■先生の真似をして、色紙を折ったり、切ったり、貼り合わせたりする。

■チョウチョの羽の模様など、作った物にシールを貼ったり、描いたりして飾ることを楽しむ。

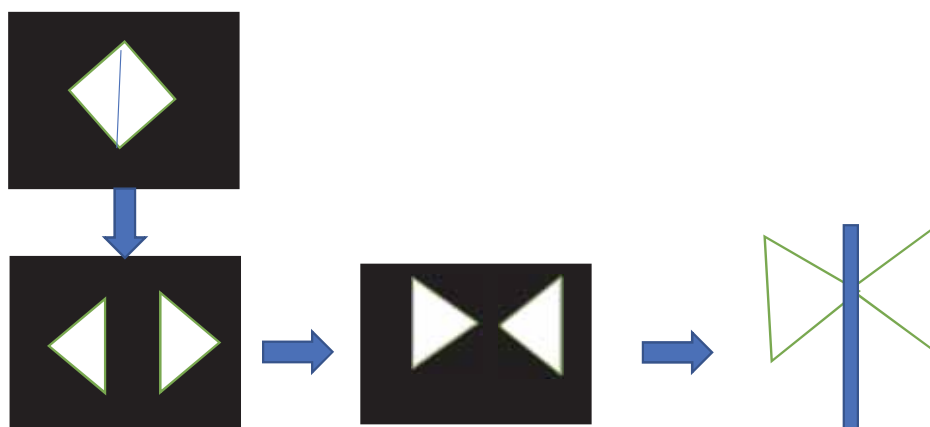
■先生や友達と一緒に、イメージの世界を楽しみながら、作った物を動かしたり、作った物になって話したりする。



### A児について

2回目の説明が進まないなか、A児は一度見たチョウチョの作り方を思い出しながら、自力で作ろうとしていた。試行錯誤（〈イ〉試行錯誤・繰り返す）の結果、見本とは異なりひらひらしないチョウチョを動かすA児に、補助教員はA児の同意を得て手伝って作り直した。この場面でのA児の主体的・対話的で深い学びとは、その学びを得るための教師の関わりは適切だったのかを振り返ってみたい。

### 〈チョウチョの作り方〉



子どもの姿	内言語	内言語につながった環境構成と援助 (内言語の読みとり)	主体的・対話的で深い学びにつなげる環境構成と援助
<p>A児は教師が説明するチョウチョの作り方を、体は教師の方に向け、右手はテーブルの上に置き、言葉は発さずじっと見ている。教師は、子ども達に「一緒に作ろう」と全体に声をかけ、色紙の配付を始めた。</p> <p>A児は教師にピンクの色紙をもらおうと、促されてハサミを取りに行った。ハサミを取って椅子に座ると、ハサミを手に持ち、ケースから取り出したり戻したりした①。次に色紙を取り、折ってみるそぶりを見せた後、すぐに色紙を手に後ろを振り返った②。続いて、色紙を両手ではさみ表に裏にとひっくり返し、時折指先でたたいてみている。他児に話しかける教師の様子を見ながら、両手で色紙をはさみ、ひっくり返してはその様子を眺めている③。</p> <p>教師が「お待たせー、一緒に作ろうか」と声をかけると、教師の方を向いた④。「白い方をテーブルに置いて……」と教師が言うと、なぜかハサミを持っていた。「ハサミがない」とB児が言いに来て、説明が中断している間もハサミを触り続けていた⑤。</p> <p>「いくわよー、せーのさんはいでー三角お山を作って見せて」と、教師が見本を提示しながら全員に言うと、A児もハサミを置いて、色紙を手に取った。慎重に頂点を合わすと、両手でさっと折り目を付け、三角になった色紙を教師に見せた⑥。次いで、説明はないもののハサミを手に取ると、左手で真ん中の折り目を切り、できた二等辺三角形を揃えて重ね教師の方を見た⑦。教師は他児の対応をしており、次の説明は始まらない。A児は自分なりに次の工程に進んでいた。</p>	<p>教師「子ども達が集中して説明を聞いていたな」「子ども達が選択する楽しさが味わえるように、後で貼るシールの色とぶつからない薄い水色と、薄いピンクの色紙を配ろう」</p> <p>A児①「ハサミって出したり入れたりすると面白いな」</p> <p>A児②「今は折り紙だった。どう折るんだっけ。まだ、折ってはいけないなよね」</p> <p>A児③「まだかなあ」「先生、〇〇君との話、終わらないかなあ」</p> <p>A児④「やっとな始まった」</p> <p>A児⑤「あ、ハサミ。早くハサミ使いたいなあ」「どうするのかなあ」</p> <p>教師「色紙もハサミ揃ったから、説明を始めよう」</p> <p>A児⑥「はい。私のはこれよ。どう？すごいでしょ」</p> <p>A児⑦「切れた。先生こうだよ」</p>	<p>(A児は教師の「一緒に作ろう」という指示を守って、先に作ったりせずに待っている。手持ち無沙汰のあまり、ハサミや色紙に触れている。)</p> <p>(時折、まわりの子どもや教師の様子を眺めて、今の状況を確認している。)</p> <p>これまでに数回、みんなの色紙を折った経験や、家庭での経験から自信をもって</p>	<p>③ハサミや色紙を最初に配付すると、集中して説明を聞くことができないことを予想して、子どものテーブルには何も置いていなかった。せめて、ハサミだけでも全員が机の上に揃ってから始めると、A児の待ち時間が少なかっただろう。</p> <p>ここから他児の対応に追われ、説明ができなかったので、できあがりのチョウチョを壁に掲示しておくことで、見比べながら自分なりに考えて</p>

子どもの姿	内言語	内言語につながった環境構成と援助 (内言語の読みとり)	主体的・対話的で深い学びにつなげる環境構成と援助
<p>教師が最初に見せた工程を思い出したのか、空中で二等辺三角形の辺と辺を重ねるよう(写真A)に試みていた⑧。(見本は頂点と頂点)、次いで、全体へ「ちょきんちょきんしてみる」と話しかける教師の方を振り向きつつ、持っていた色紙を取り落とし、三角形の向きを変えつつ、2枚をぴったり重ね合わせた⑨。次いで、ひし形になるように底辺と底辺を合わせると、再びまわりの様子を見て⑩今度はテーブルの上で線対称に羽が開くように動かし(写真B)、すぐさまひっくり返し白い面が上になった。まわりを見ながら⑪、いろいろに二等辺三角形の向きを変え、最終、二等辺三角形の底角と底角を空中で重ねるようにした⑫。(写真C)そこに教師が登場し、A児や近くの子どもに「きれいに切れたね」と言いながらセロハンテープ台を置いていくと、A児は底辺と底辺を合わせひし形になるように置き、ハサミをケースにしまった⑬。</p> <p>そしてセロハンテープ台からテープをちぎると、底辺と底辺を貼り合わせ始めた。3か所テープを貼り付けると、近くにいた他教師にできたチョウチョを見せた。その教師に認めるような声掛けをしてもらくと、⑭次にチョウチョを半分に折って、近くのテーブルに来た教師に見せた⑮。教師が気付かないでいると、再びセロハンテープをチョウに貼り付けた。</p> <p>(中略)</p> <p>黄色い丸いシールを線対称にチョウチョに貼り付けると、ストローを配り通り過ぎた教師に、「赤がいい」と主張し⑯、ピンクのストローをもらうと、チョウチョにストローを貼</p>	<p>A児⑧「たしか、こうやって、くっつけるんだったかな」</p> <p>A児⑨「先生どうするの？」</p> <p>A児⑩「これで合ってるかなあ」「みんなどうしているのかな？」</p> <p>A児⑪「みんなどうしているのかな？」</p> <p>A児⑫「こうするとチョウチョみたいにに見えるけど」</p> <p>教師「子ども達、切るころまで順調に進んでいるなあ」</p> <p>A児⑬「きれいきれい」「よし、これでいい」</p> <p>A児⑭「見て、私のチョウチョ。できたよ」「先生がほめてくれてうれしいな」</p> <p>A児⑮「先生、見て」</p> <p>A児⑯「ストローは赤だよ」</p>	<p>折ることにつながったのだろう。</p> <p>⑧～⑫</p> <p>1回目の説明の際、黒色の板上で半分に切った赤い色紙を「くるりんぱ」と写真Aから写真Bの状態に動かした。</p> <p>この時の映像としての記憶を基に、A児は自分なりに試行錯誤している。テーブル上ではなく、空中で行っているのも教師の手本を忠実に再現したのかもしれない。線対称に羽が開く所までは教師の見本通りをなぞっていた。</p> <p>⑬教師がセロハンテープを置いたことが、引き金になっているかどうかは分からないが、その直後、作った形で納得していた。ハサミをケースにしまうことは、A児なりに「これでできた」という意思表示なのかもしれない。</p> <p>⑯子ども達がイメージするチョウチョが作れるように、子ど</p>	<p>作ることにつながっただろう。</p> <div data-bbox="1197 414 1433 672">  <p>写真A</p> </div> <div data-bbox="1197 761 1433 1019">  <p>写真B</p> </div> <div data-bbox="1197 1108 1433 1366">  <p>写真C</p> </div>

子どもの姿	内言語	内言語につながった環境構成と援助 (内言語の読みとり)	主体的・対話的で深い学びにつなげる環境構成と援助
<p>り付けた。</p> <p>ひし形の頂点から2cm程の所にストローを貼り付けたため、A児がストローを手に持つと、チョウチョが重みで垂れ下がっていた。<u>それでもA児は、教師がやっていたようにチョウチョをひらひらと動かそうと、ストローをゆるやかに上下させ、同時に頭も上下させていた(写真D)⑱。</u>そして近くにいた補助教員に「これ見て」とストローを動かして見せた。補助教員に「ほんまや」と受けとめてもらおうと、再びストローを持ってチョウチョを動かす、同時に頭を動かしていた。そこに、<u>重みで垂れ下がりひらひら動かないことを心配した補助教員が、「こう貼っちゅうき(貼っているから)ひらひらせんき…(ひらひらしないから)」</u>と説明し、テープをはいでもよいかどうかA児に尋ねた。A児は表情を変えずに、黙ってうなずいた⑲。A児はハサミをケースに入れたり出しりしながら、補助教員がテープをはがし終わるのを待っていた。</p> <p>そこにB児が「見て、チョウチョが反対」と言い、ニコニコしながら作ったチョウチョを、他の教師に見せに来た⑳。A児と同様に貼っていたが、ストローをひし形の中心まで貼り付けていたので、羽はピンとし動かすとパタパタと動いた。</p> <p>セロハンテープをはぎ終えた補助教員が見本通りに色紙を「くるりんぱ」と動かしながら説明するのを、A児はうなずきながら聞いていた。その後、保育補助員に手伝ってもらいながら、チョウチョを完成させると、<u>教師が、先にチョウチョができた子ども達と出かけた所へ小走りにかけていった㉑。</u></p>	<p>A児⑱ 「チョウチョができた。ストローを動かすと動く。うれしいな」</p> <p>A児⑲「そうなんだ?」「これじゃだめだったのかなあ」</p> <div data-bbox="655 1227 1050 1525" data-label="Image"> </div> <p>写真D</p> <p>A児⑳「反対に貼り付けてもチョウチョになるよ。面白いでしょ」</p> <p>A児㉑「やっどできた」「みんながいるところへ行こう」</p>	<p>も達が好きで、チョウの色を邪魔しない程度の淡いピンクと淡い水色のストローを用意した。逆にシールは黄色、赤、青とはっきりした色で、たくさん飾っても色合いがきつくならない直径5mmのシールを用意した。</p>	<p>⑱保育補助員とはチョウチョができあがった時に、出来映え評価にならないように声をかけようと打ち合わせを行っていたが、作り方を間違えている子どもにどう対応するかは打ち合わせていなかった。</p> <p>A児は「あれ、自分のチョウチョ、何だか変かな」のように困った素振りではなかった。A児なりに「できた」と思っていたようだったのでその姿を認めていく援助が必要であった。</p> <p>今後2つ目、3つ目を作る姿が見られたときに、「こんな方法もあるよ」と知らせる方法もあったかもしれない。</p> <p>⑳案を立てる時に、チョウチョを作った子どもから、あらかじめ何か所かに飾っておいた花</p>

子どもの姿	内言語	内言語につながった環境構成と援助 (内言語の読みとり)	主体的・対話的で深い学びにつなげる環境構成と援助
<p>A児が玄関に到着すると、<u>チョウ</u> <u>チョ</u>を持って玄関の花の絵に止まら せたり、先生に<u>チョウ</u><u>チョ</u>を止まら せたりするなど、教師と友達が<u>ごっ</u> <u>こ遊び</u>をする様子を、<u>笑みを浮かべ</u> <u>て見ていた。</u>②教師や友達が遊戯室 に入ると、みんなと一緒に、<u>チョウ</u> <u>チョ</u>を持ってニコニコと走っていた。</p>	<p>A児②「みんな、面白 そうなことやっている な」</p>	<p>ルの出ている保育室 は狭い。一定のスペー スがあり、壁面にタ イルモザイクででき た花などの絵がある 玄関に誘った。作っ た<u>チョウ</u><u>チョ</u>を花に 止まらせて遊ぶなど イメージをふくらま せて遊ぶことができ ると考えた。</p>	<p>(色紙で製作した もの)に止まらせ て遊ぼうと思っ ていた。しかし、ス ペース的に難しい と思い、取りやめ たが、少しでも花 を準備し遊んでお くと、弁当後や翌 日以降への遊びに つながりやすかつ たのではないかと</p>

## 考察

### A児を中心とする幼児の学び

集団生活の経験がないA児は、泣いてはいなかったが入園当初から緊張気味で、遊んでいても時折まわりの様子を窺っているようなところがあった。また、友達や集団の中で、自分の思いを主張する姿は見られず、お気に入りの友達と同じ場で、自分のしたいことを楽しむ姿が見られた。困ったことがあっても、自分から教師に伝えに来ることはあまりなかった。

このチョウチョの製作の場面でも、おそらくどうしたらいいのだろうと戸惑っていたと思われるが、教師に知らせることはなく、自力で奮闘している。1度見た教師の「くるりんぱ」を基に、三角の色紙2枚を対称にしているところまでは理解していて、線対称や点対称に動かし、惜しいところまでいていた。そして最終できた形は見本通りではなかったけれども、A児は納得していて、肩を揺らしながらチョウチョを動かすさまは、うれしそうだった。試行錯誤の過程は、A児なりにモノと向き合う、モノと対話する過程であったと言える。試行錯誤の結果得た満足感、次への主体性につながるのではないだろうか。モノと対話する過程、できあがった満足感、できた物を動かす喜びが、このたびA児が得た学びではないだろうか。

### より主体的・対話的で深い学びにつなげる環境構成と援助について

#### 環境構成

玄関に出かけ、壁面の花に止まらせたり、遊戯室でチョウチョを持って走ったりすることは、自由なイメージをもつ3歳児には合っていたと思う。ただ、室内にもいくつか花を飾っておき、チョウチョを止まらせて遊べる環境をつくっておくことで、翌日以降の遊びが広がったと思う。この日の翌日も、チョウチョを作りたくなった子どもがすぐ遊ぶことができるように、目につきやすい製作テーブル近くに色紙棚を置き、製作テーブルにはストローを置いておいた。数名の子ども達は作ったが、持って友達とごっこ遊びをするような姿は見られなかった。チョウチョを作った日に飾っておいた花で遊んだり、または子どものイメージを聞きながら、一緒に花を作ったりすると、集団活動での遊びが好きな遊びの時間を豊かにしたかもしれない。

## 援助

チョウチョの教材研究をした際、少し動かすだけで、空気の抵抗でふわりと動く面白さも経験してほしいと思った。しかしA児と同様な物を作っていたB児が「チョウチョが反対」と言ってニッコリしている様子から、貼り付け方が異なっていることに気付いても、なお、それでもかまわず楽しいんだなということがわかった。

そう考えると、試行錯誤の末できあがって満足している時に、しかも緊張気味のA児にとっては作り直す関わりが適切だったのか。A児なりに「できた」と思って動かしている姿を認めていくことが、満足感となり、A児が自信をもって、主体的に物事に関わっていくことにつながるのではないだろうか。今後、好きな遊びの時間に2つ目、3つ目を作っている時に、「こんな方法もあるよ」と知らせたり、困っているようであれば一緒に考えたりすることで、A児の学びにつながったとも考える。

集団で1つの物を作る時、しかも3歳児が27名となると、作り方がわからなかったり、違ったりすることは織り込み済みで、どこまでねらうかを保育補助員と事前に話し合う必要があったと思う。



2021年6月3日（木）4歳児うめ組「動物のイメージで体を動かそう」

年中の子ども達は日頃から「走る」動きをよく経験しているが、「のぼる」「はう」「跳ぶ」ことの経験には差があり、ふだんの遊びの中でもあまり見られない。そのため、今回の運動遊びにおける集団活動では、「跳ぶ」ことを中心に、幼児期に身につけたい36の基本動作のうち経験が少ないと思われる動きも取り入れながら、子ども達が体を動かす楽しさを繰り返し味わえるようにしたいと考えた。また、ふだんのごっこ遊びでネコやイヌなどになりきって体を動かしていることから、子ども一人一人のイメージする動物の動きを大切にしながら体を動かすことを楽しみたいと考えた。


そして、活動の中で子ども一人一人が自分で選んで取り組んだり、組み合わせを考えたりできるようにすることで、主体的な学びにつなげていき、「新しい動きをしてみたい」、「今度は後ろ向きでジャンプしよう」などと【主-2】「こうしたい」、「こうなるといいな」等の目的（イメージ・見通し）をもって、人、モノ、ことに能動的に関わる姿を引き出したいと考えて取り組んだ事例である。




ねらい（○）・内容（■）

- イメージした動物の動きをいろいろ試したり、体のバランスをとって高いところに上がったり、平均台を渡ったりすることを楽しむ。
- 自分で考えた方法で6～8段の巧技台に上がって下りたり、平均台を渡ったりする。
- クマやネコなどの動物になって、体を丸めたり、関節を曲げたり伸ばしたりして進む。
- 少し難しいことに繰り返しチャレンジしながら、できるようになった喜びを味わう。
- できるようになったことを生かして、高さや組み合わせを選んで取り組む。

A児について

A児は運動が卒なくできる、穏やかな子である。楽しそうな活動に対して「やってみたい」という気持ちを持ち、教師や友達に「早くやりたいね」「楽しみだね」などとよく伝えている。一方、恥づかしがりやな面もあり、たくさんの人から注目が集まると、「あんまり見んといてほしい…」と呟くことがある。A児の姿を中心に主体的・対話的で深い学びを捉えていきたい。

子どもの姿	内言語	内言語につながった環境構成と援助	より主体的・対話的で深い学びにつなげる環境構成と援助
<p>みんなで遊戯室に移動し、話し始めた。教師が「ジャジャン」と言いながらネコのカードを出すと、子ども達が「ネコ！」と答えた。教師が「ネコさん、どうやってやる？」と聞くと、子ども達が<u>四つんばいになって、前に進んできた</u>。A児も教師のネコのカードを見て、さっとネコの動きをやり始める。初め、仲よしのB児を見るが、その後はどんどん進んで、Uターンするように動いた。</p>	<p>A児：今日はどんなことをやるのかな？</p>  <p>A児：ネコの真似、好き！B児ちゃんどうかなあ。</p>	<p>・動物のイラストカードを見せたことで、すぐにイメージが浮かび、体を動かすことにつながった。</p>	<p>・教師は終始大きな声で説明することが多かったが、小さな声で援助を行う場面をつくることで、子ども達も聞こうという気持ちになっていき、主体的な学びにつながるのではないだろうか。</p>

子どもの姿	内言語	内言語に つながった 環境構成と援助	より主体的・対話的 で深い学びにつなげ る環境構成と援助
<p>教師が「ジャジャン！これ何？」とカードを見せながら聞くと、C児が「クマ！」と答える。教師が「どうやってやる？」と言っている間に、A児は腰を上げてすぐ歩き始める①。他児を見たりしていない。教師が「A児ちゃん上手上手」と言うと、時々横を見ながら進んだ。</p> <p>フラミンゴのカードを出しながら言った教師の「ジャン！」の声に反応し、みんながフラミンゴになった。A児は円を描きながら教師の後ろを回ってケンケンする②。</p> <p>教師が「ジャン」と言って、4つ目のカードとなるワニを出した。A児は両手両足を交互に動かして腹ばいで進む③。B児と目を合わせ、口を開け、ワニの鳴き声のようなしぐさをする。</p> <p>教師が「D児くんいいねえ！手でワニの口を表しているねえ」と言うと、D児の近くの子が手を上げ始めた。それをチラッと見て、B児がまっすぐ腹ばいで進んでから、頭の方に伸ばすように右手を上げた。A児もB児を真似て、左手を上げ天井を向くように半回転する。少ししたら元に戻り、また腹ばいで進む。教師が「じゃあ」と言うと、座って教師を見た。教師がタンバリンを鳴らしながら「集まれー」と言うとすぐ反応し、「集まれ集まれ」とB児に知らせながら、教師の近くに行った。</p> <p>そして、「ジャジャン」という教師の声に反応し、身を乗り出して教師の話聞く。動物のカードを貼ったカラーコーンを見せながら教師が「これは？これは？」と聞いていくと、A児も一緒に名前を答えていく。教師が「それから…こーんな、これ見たことあるね」と言うと、子ども達が「ビリビリ棒」と言った。教師がビリビリ棒を持ちな</p>	<p>A児：おしりをあげるのも簡単簡単！</p> <p>教師：床にひざがついてないなあ。A児ちゃんすごい！</p> <div data-bbox="726 533 906 638" style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">  </div> <p>A児：そんなのできるよ！</p> <p>A児：ケンケンできるよ！できた！</p> <div data-bbox="702 824 882 952" style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">  </div> <div data-bbox="702 967 882 1072" style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">  </div> <p>A児：B児ちゃんのワニさん面白い！私も手を上げて大きな口を作ろう。B児ちゃんと一緒にやるの楽しいな。</p> <p>A児：天井が見える～。</p> <p>A児：B児ちゃん！早く早く！もう…B児ちゃんったら遅れちゃうよ！</p> <p>A児：なにになに？</p> <p>A児：楽しそう！ビリビリ～面白い！B児ちゃん見てみて～！</p>	<p>・教師がすぐに集まったことを認め、たくさんの活動ができることを伝えたため、「いっぱいやりたい」と意欲的になった。</p> <p>・いくつかの種類の用具を使ったため、「楽しそう」という気持ちにつながった。</p> <p>・教師がビリビリを体全体で</p>	<p>・「わー大きな口を開けている。あくびしているのかな。それとも何か食べているのかな。」などワニになりきって表現する楽しさを味わえるような言葉かけを行う。</p> <p>・「すごい」「上手」という言葉がけが多く、出来栄評価に捉えられやすくなるのではないかと。「ワニさんがいっぱい集まってきた」など、いろいろな動物になりきって表現した喜びや達成感が味わえるような言葉かけや子どもの動きを面白がる評価を意識して行くことで、子ども達の「同じ動きをしてみたい」「いろんな動きをしてみたい」という気持ちを引き出し、より主体的に自分のイメージにそった動きをするのではないだろうか。</p>

子どもの姿	内言語	内言語に つながった 環境構成と援助	より主体的・対話的 で深い学びにつなげ る環境構成と援助
<p>がら「キヤー！先生ビリビリしちゃう」と言うと、A児は手を動かして驚いたビリビリの表現をする。後ろを向いて、B児の前でも同じようにする。</p> <p>教師が「みんなで今日はこれを使って自分達でコースを作ってみない？立ちましよう」と言うと、A児はすぐ動き、ビリビリ棒を取り、友達と一緒に置きに行く。友達と一緒に3本ビリビリ棒をくっつけて並べる。その後、ネコの絵のついた三角コーンを押さえていた。教師は「(コーンの間が)短すぎるかなあ」と言いながらネコのコーンを動かす。A児は舌を出しながらゆっくり移動し、並ぶ場所に行って平均台を渡り、ジャンプして降りた。</p> <p>「用意はいいかい」と教師が言うと、A児はビリビリ棒の後ろへ行き、友達の後ろに並ぶ。3本つながったビリビリ棒をドスッと音を立てて両足で跳ぶ。また、戻ってもう一度またぐように軽くジャンプした。三角コーンの所で待ち、巧技台からジャンプして、マットでないとこに着地する。3つのストーン(飛び石)を3歩で渡る。平均台をネコのように四つんばいになって手元を見ながら渡る。その後6つのストーンを6歩で渡る。青～緑の動物コーンはとばして、ビリビリ棒の所へ走って行く。びよんびよん跳び跳ねたり、後ろの友達の方を向いて体を動かしたりしながら並んでいる。</p> <p>教師が「ここにたくさん並んでいるね。すいている所、あっちに行ってやってもいいよ」と言ったが、本児も他児も動かない。並んでいる途中で、3本つながったビリビリ棒があり、跳び越える。前列のE児が後ろ向きジャンプをし、A児も同じように後ろ向きにジャンプをした。ジャンプが終わると、走って3つのストーンへ行く。3つのストー</p>	<p>教師：みんなやりたいって言うてくれるかな。 A児：できるよ！やりたい！これはくっつけたいな～。 教師：ええ！こんなに近すぎると動物になれないよ！これは離してもいいかな…？</p> <p>A児：やってみよ～！ 簡単簡単！ A児：楽しいからもう一回やーろう！</p> <p>A児：ここはやっぱりネコだよね。</p> <p>教師：空いてるところに行ったらいいのに。みんなジャンプが好きなもの？ A児：わたしはここがいいんだもん。E児ちゃんの真似してみ～よう！ここはネコって決めるんだ。とばしちやえ～。早くジャンプしたい！</p>	<p>表現したため、それを面白がることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子ども達が場所を決めて用具を置くことができたため、自分達で考えて、活動することができた。</li> </ul> <p>子ども達が好きなどころを選んで進むことができたため、やりたい活動を意欲的に行うことができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「さあ、ネコはどんな歩き方をして平均台を渡るのかな」などみんなで場のイメージを共有しておく、多様な歩き方が生まれ、深い学びにつながっていったらう。</li> <li>教師の中に“コース”というイメージがあり、“こうしなさい”という教師の見えないメッセージを与えてしまっていた。一方</li> </ul>

子どもの姿	内言語	内言語につながった環境構成と援助	より主体的・対話的で深い学びにつなげる環境構成と援助
<p>ンを3歩で進む。2周目も平均台をネコ渡りするが、1周目よりも少し速いスピードで進む。少しだけ間隔を空けて真っすぐに並んでいる6つのストーンを6歩で進む。青～緑のコーンをとばして、走ってビリビリ棒のところへ行く。</p> <p>順番を待っている時に、体がびよんびよん動いている。3本の離れたビリビリ棒を少し躊躇しながらも一気に跳ぶ。前列のE児は後ろを向いて6段の巧技台をジャンプしたが、A児はまっすぐジャンプして今度はマットに着地する。教師が何も無いところに、ストーンを少し離して6つ置いた。そのストーンの上をゆっくり丁寧にまわりも確かめながら跳ぶ。平均台では、まわりも見ながら3回目のネコ渡りをする。6つのストーンを足早に渡り、動物のコーンをとばして、ビリビリ棒のところに並んだ。友達と待っている間にらめっこをしている。並んでいる間にタンバリンが鳴り、近くにいた補助教員を見ながら、少しその場に留まっているが、補助教員が手招きしたのを見て、教師の近くに集まる。</p> <p>「先生かっこいい人いっぱい見つけた。紹介してもいい？A児ちゃんとE児ちゃん」と言うと、A児はジャンプして座り込む。E児はA児よりも遠くにいたが、足早に教師の下に来て、その後ろにA児も並ぶ。みんなの前でストーンを渡る。一人でしたときよりも速く、リズムよく跳んで行く。その間、教師は「見ててよ～」とみんなに言う。A児は跳び終わって、手を口元に当てながら恥ずかしそうに元の場所に戻り、E児に親指を立ててGOODと笑顔で合図した。</p>	<p>A児：楽しいな！一気に行けるかな…行ってみよう！</p> <p>A児：あ、ちょっと難しくなってる。ゆっくり行こう。</p> <p>A児：まだやりたかったなあ。</p> <p>A児：だれだれ？ 教師：少し難しいことにあきらめずに挑戦していた人を紹介しよう！ A児：みんなの前でやるのはちょっと恥ずかしいな。 A児：E児ちゃんできたね！ナイス！</p>	<p>・ A児と同じように運動の得意なE児と同時に紹介したため、一緒に達成感を味わい、共有することができた。 (偶然)</p>	<p>向の流れは守りつつ、様々な行き方があると行列にならずにたくさんの活動ができたり、同じ場所にいる子ども同士の対話が生み出されたりしたのではないだろうか。</p> <p>・ 「よく聞いて」「よく見て」と言うよりも「〇〇ちゃんはこんなことしているね」と子どもの姿を現象としてそのまま知らせる。また、子どもに「どこが〇〇らしい渡り方になっていたか」、「どこが面白いと思ったか」を聞いたりすると、他の子の動きを面白がり、「それもやってみたい」という気持ちにつながるのではないだろうか。</p>

## 考察

### A児を中心とする幼児の学び

- ・好きなところから始めたり、活動を自分で選んで取り組んだりして、動きを変化させながら自分から進んで繰り返し楽しんでた。(主体的な学び)
- ・B児の顔をのぞき込んだり、B児に対して鳴く真似をして大きく口を開けたりするなどの応答的な動き(破線部)をしていた。(対話的な学び)  
→言葉がなくても体の動きで対話しており、A児はB児の動きを真似して、友達とのつながりや居心地のよさを感じながら体を動かしていた。
- ・以下の表は分析シートの下線部を取り出してまとめたものである。

ビリビリ棒	巧技台	ストーン	平均台
①3本つながったものをドスッと音を立てて両足で ②またぐように軽く ③3本つながったものを跳ぶ ④躊躇しながらも離れた3本を一気に	①マットでないところに着地 ②後ろ向き ③マットに着地	①3つを3歩で ②6つを6歩で ③3つを6歩で ④6つを6歩で ⑤離れた6つをゆっくり丁寧にまわりも確かめながら ⑥6つを足早にネコになって	ネコになって ①足元を見ながらゆっくり ②少し速め ③まわりを見ながら

このように、A児は活動の中で多様な動きや芸術表現のための基礎的な技能の獲得(知識・技能の基礎)をしている。動きを試行錯誤、工夫(思考力・判断力・表現力の基礎)する中で、身体感覚の育成(知識・技能の基礎)をしている。

### より主体的・対話的で深い学びにつなげる環境構成と援助について

- ・自分達で動かしてもよい道具の数が少なかった。  
→バランスボードの数を増やして行うことで、コースや動き、友達との関わりに広がりが見られるようにしたい。
- ・教師が「ジャン」などとクイズのように動物のイラストカードを提示していった。  
→子ども達がお話の中でイメージをしながら身体表現が楽しめるよう、「動物園に行こう」「大きなワニがいました」などと子ども達がやってみたくなるような表現で伝える方法もあった。表現したい、運動したいという気持ちの動機付けが大切である。
- ・自由な活動でも紹介の時間でも「かっこいい」を多用しているが、何がかっこいいかわからない。  
→多様な渡り方がよいのか、リズムカルな渡り方がよいのか、聞いている子が何を感じ取れば自分もやってみようと思うのかを考えたい。

### 研究協議で学んだこと、今後に向けて

今回、様々な用具があったこと、またそれを自分達で動かしたことで意欲的に活動でき、主体的な学びにつながった。今後、好きな遊びの中でも自分達で道具を出して遊べるように、渡り廊下にバランスボードやストーン、巧技台のふたをいくつか置いておきたい。

また、研究協議を受けて、改めてこの活動で予想される多様な動きを考え、表にまとめてみた。

	ビリビリ棒	巧技台	ストーン	平均台
高さ	高く／低く	高く／低く	高く／低く	高く／低く
速さ	速く／丁寧に		速く／丁寧に	速く／丁寧に
向き	前／後ろ／横	前／後ろ／横	前／後ろ／横	前／後ろ／横
回転	しない／ する (90度・180度)	しない／ する (90度・180度)	しない／ する (90度・180度)	しない／ する(くるくる回りながら)
幅	狭めて／広げて		狭めて／広げて	
初め	立って／座って	立って／座って	立って／座って	立って／座って
途中	フラミンゴ (片足) ／両足		フラミンゴ (片足) ／両足	ネコ歩き／なし
終わり	立って／座って	立って／座って	立って／座って	立って／座って
終わり		ポーズあり／なし		ポーズあり／なし

このように、予想される動きを整理したことで、思っていた以上に多様な動きがあることがわかった。これらを言葉に置き換えたり、動物の動きに照らし合わせて伝えたりすると、より動物のイメージが具体的になり、「今度はこうしてみよう」と子ども達のさらなる多様な動きにつながるのではないかと思った。

最後に動きを紹介する場面では、子ども達に様々な動きを見てもらいたいと思い、教師が幅を広げて少し難しくなったストーン（飛び石）に挑戦しているE児とA児を紹介した。しかし、研究協議を受けてねらいに立ち返ると、紹介の場面では多様な動きが出る平均台もしくは巧技台に絞って「どんな渡り方（跳び方）かな」「いろんな渡り方（跳び方）を見てみたいな」などと言いながら多様な動きにつながるような活動もあったのではないかと感じた。一方で、幼児期には活動のまとめとして友達と見合うことよりも、幼児一人一人が多様な動きを繰り返し楽しむことが重要であることも学んだ。

そして、学びの読み取りではつい言葉に着目しがちであったが、表情、体の動きなどからも子ども達の学び（何を楽しんでいるのか）をしっかりと見取っていきたいと感じた。言葉を発していないときに子ども達が何を感じているのかを読み取れるよう、それらを意識して保育を行っていきたい。

## 2021年5月25日（火）5歳児はと組「割りピンを使った動物作り」

5月、大型積み木を使って動物園ごっこが始まり、動物になりきることを楽しんだり、飼育員をイメージして遊ぶことを楽しんだりしていた。この姿を受け、教師は、子ども達がイメージしているものを試行錯誤しながら仕掛けや立体的に形にしていく楽しさを味わってほしいと願い、クラスでの集団活動の時間に割りピンを使った遊びを提案した。すると、ワニを切り取った残りの色画用紙を使って、セロテープで貼り合わせ、カメを作ったり、割りピンで作ったワニのあちこちに残りの色画用紙をつけ、オリジナルのワニを作ったりしていた。



このワニ作りをきっかけに、さらに子ども達が動く動物を作ることの面白さを味わい、遊びの幅を広げる素材の1つとしてほしいと願い、以下のようなねらい・内容を設定して2回目の割りピンを使った製作を行うことにした。

まず、1回目の割りピンを使ったクラスでの集団活動の時間に、2枚重ねて穴を開けようとした際に、穴が欠けてしまい、割りピンを差すことができずに悔しがった子どもの話から始めた。事前に記入しておいた穴を開けるとよい場所を示し（一穴パンチの穴が開いている方を上に向けて黒い点が見やすいように、一穴パンチに付いているカバーは全て外しておいた）スライドさせ、色画用紙に描かれた黒い点を目指す。黒い点と一穴パンチの穴が一致したところで、パンチする。もう1枚も同じように黒い点を目指してパンチし、穴が開いたもの同士を重ね合わせて割りピンで留めるという方法を知らせた。



縦長や小さい色画用紙なども用意しているので、オリジナルの動物を作ることでもできると知らせ、「動物作りを楽しみましょう」と言い、製作遊びを開始した。

### ねらい（○）・内容（■）

- 前回の経験を生かして、ハサミや割りピンなどを使って、動物作りをし、自分が作った動物に動きが出ることを楽しむ。
- 作りたい動物を選び、ハサミで切ったり、一穴パンチで穴を開けたりして作ってみようとする。
- 水性マーカーで色を塗ったり、他の部位を加えたりし、オリジナルの動物を作ることを楽しむ。
- 作った動物を動かしながら、自分が思ったことや考えたことを友達と言葉でやりとりしたりする楽しさを味わう。

### A児について

A児は、月に1回くらい発熱で1週間ほど休むことがあり、年長の園生活になじむにも時間がかかっていた。A児は、まわりの様子をよく見て、行動することが多く、何事にも確認が必要だったり、自信がないことにはまわりの様子を見て慎重に行動したり、友達に声をかけてもらったり、代弁してもらったりして過ごしていた。また、クラスの友達が大きな声で言い合って遊んだり、たくさんの人が一度に集まるトイレなどの密集する場所にいたりするのも苦手であった。


A児は、時折、気の合う友達とは自分の思ったことを言葉にしたり、自分がやりたい遊びで満足感が得られると、大きな声で話したり、教師にも話しかけたりする姿が見られていた。

※下線は本園の考える主体的・対話的で深い学びのキーワードをさしている部分

子どもの姿	内言語	内言語につながった環境構成と援助	主体的・対話的で深い学びにつなげる環境構成と援助
<p>いろいろな動物の形が描かれた色画用紙の中から肌色の画用紙に描かれたプテラノドンを選ぶ【主-3】。</p> <p>A児は慎重に線の上をハサミで切り進めていた。B児の動きや教師が発している声に手を止めて見たり、自分が座っているテーブルのそばを誰かが動くとその方を見たりしている。</p> <p>時折、B児の方を見ながらハサミの歯の奥まで色画用紙に差し込み、目線は線に落とし、ザクザクと切り出す。</p> <p>3つのパーツのうち羽の部分の2枚切った。その後、残っている胴体部分を切り始めたが、隣のC児もプテラノドンを作っているの、ちらっとその様子を見たり、まわりの様子を50秒くらい見たりしていた。</p> <p><u>切り進めてきたまわりの色画用紙が邪魔をして、胴体の足の部分に、ハサミが沿わず、左手の甲を色画用紙の上に向けたり、色画用紙の下側に入れたりして、少し険しい表情で苦戦（35秒）している【対-2】。</u></p> <p>教師が「きれいに切れんね。こうやったら切りやすい」と、まわりの色画用紙を切り除く。A児</p>	<p>A児：大好きなB児と同じ動物で同じ色にしたいな【主-3】。</p> <p>A児：切り進めていっていいんだよな。</p> <p>教師：まわりの様子が気になるのかな。</p> <p>教師：A児は、B児の進度の速さに焦っているようだな。</p> <p>A児：間違えていないよな。B児君、速いな。</p> <p>B児君がもう全て切り終わっている。待ってー。</p> <p>A児：これまでは、パーツが2つだったが、これは3つあるな。3つ目の部分も切ってよいのかな。「これでいい？」</p> <p>A児：どうやったら切れるんだろう。なかなか思うように切れないな。困ったな【対-2】。</p>	<p>1台のテーブルに向かい合わせで4人まで座ってよい。座る席は決まっておらず、誰とでも自由に座ってよい。</p> <p>子ども達が作りたいと言っていた動物をあらかじめ印刷した色画用紙（3～4枚程度）と色々な大きさの色画用紙（はがきサイズや長方形、8つ切りなど）を用意した。</p>   <p>気の合う友達とテーブルを囲んでいる。同じ動物を選んだ友達の作り方を見ることができる。見ることで作り方を知ったり、友達の作り方を取り入れたりして作ることができる。</p>	<p>本児が安心して活動を始められるよう「そっだよ、それでいいんだよ」と認める言葉がけをするなどの教師の関わりを大切にする。</p>



子どもの姿	内言語	内言語につながった環境構成と援助	主体的・対話的で深い学びにつなげる環境構成と援助
<p>は、教師がまわりの紙を取り除いていく様子などを見ながら、教師の言葉に小さくうなづく。胴体部分も切り終わると、一穴パンチに目をやり、まわりにも目をやり、胴体についている黒い印の所に一穴パンチで穴を開ける。</p> <p>次に羽1枚ずつに穴を開ける。</p> <p><u>胴体の上に右翼を乗せ、次に左翼を乗せてみる。</u></p> <p><u>今度は胴体の上に左翼を乗せ、その上に右翼を乗せてみる。やはり胴体の上に右翼を乗せ、左翼を乗せ、割りピンに手を伸ばし留めた【主-3】。</u></p> <p>割りピンで留めたプラノドンは、動かすことなく、テーブルの上に置き、前の型紙置き場へ向かった。</p> <p>2枚目もB児と同じ色の薄い灰色のブラキオサウルスを1枚選び、目線はしっぽ部分に落とし、ザクザクと切っていく。</p> <p>目線は切る線の上をずっと見ている。ハサミの動かし方もハサミの奥まで入れてザクザク切っている。</p> <p>B児が2体目のブラキオサウルスを作り終わっているのを目にする。</p> <p>B児が「積み木で動物園と恐竜ごっこやろう」などと隣のD児と話をし</p>	<p>A児：なるほど、切りにくい時は、まわりの紙を切り取ると切りやすくなるのか。助けてもらえてよかった。</p> <p>A児：どの順に重ねてもいいのかな。3枚を1つにすることは初めてだな。これでいいのかな。</p> <p>A児：B児君がブラキオサウルスを作っている。急がないと。B児君と同じ物が作りたい【主-3】。</p> <p>A児：やり方がわかったぞ。今度は簡単だな。</p> <p>教師：1つ作ったことが自信になっているのかな。</p>	<p>幼児の困り感に寄り添い、タイムリーに援助したことで、安心して活動に参加できた。</p>	

子どもの姿	内言語	内言語につながった環境構成と援助	主体的・対話的で深い学びにつなげる環境構成と援助
<p>ている。</p> <p>A児は2枚を合わせて2つのパーツの黒い点同士を重ね合わせる。一穴パンチを2枚一度に差し込み、裏はどうなっているか確認したり、右手に持っていたのを左手に持ち替えてみたりする。</p> <p>そこへ教師が近寄ってきて「合わせてやってるん？」と2回聞く。D児も教師の声に合わせて「合わせたらいかんで。合わせんでいいで」と言う。「これ（1つ目）も合わせてやったの？」「1個ずつ？」と尋ねるとA児はうなずく。A児の隣にいたC児が1枚ずつ穴を開ける手伝いをした。</p>	<p>A児：速く。速く。僕も一緒に積み木で動物園と恐竜ごっこしたいな。速く作る方法はないかな。</p> <p>A児：ワニ作りの時にしたみたいに2枚重ねて穴を開けられるかな【主-1】〈イ〉試行錯誤 繰り返す。</p>  <p>教師：あれあれ、2枚重ねているけれど、やり方がわからなかったかな。</p> <p>教師：A児がうなずいて意思表示をしてくれてよかった。</p>	<p>最初に割りピンを使ったワニ作りの時に2枚合わせて穴を開けるやり方を思い出して、自分なりに試行錯誤する時間や雰囲気があった。</p>	<p>幼児と教師の心を通わせ、これまでの経験を生かして作ることを楽しむことができるように「A児君、すごい！先生、2枚重ねてできると思ってなかった。なるほど、そういうやり方もあるね」など、教師の教材準備の不備を認めたり、幼児なりの考えややり方で取り組む姿勢を支持したりする。</p>

## 考 察

### A児を中心とする幼児の学び

- ・クラスでのワニ作り活動後、好きな遊びの時間にも割りピンや一穴パンチを製作コーナーに出しておく、自分の作りたい物を作ったり、割りピンで面白い動きが出たと教師に見せてくれたりし、子どもの表情はとても生き生きとしていた。この姿を生かして、自分が作った動物に動きが出ることを楽しんでほしいと願い、2回目のクラスの活動を行った。しかし、今回は、自由に作ることができるいろいろな大きさの色画用紙もあったが、子ども達一人一人が困らないようにと教師が動物の形の線や穴を開ける場所を描いておくなど準備したため、自由度がなくなり、子どもの発想ややり方を生かした作品作りにはならず、主体的・対話的で深い学びにもつながらなかった。
- ・「動物作りを楽しみましょう」といった導入だった。割りピンを使った遊びがもっとやりたい物として、好きな遊びとの往還が生まれ、主体的・対話的で深い学びにつながるようにするためには、割りピンによって動物の体の動きを多様にできることを面白がったり、これまでの表現とは違った表現ができた達成感を感じたりできるような「みんなで動物の森を作ろう」というようなめあてがあるとよかったと考える。

今回、学級全体としては、〈図1〉にも示しているが、以下のような幼児の姿と学びが見られた。

	幼児の遊びの様子	幼児の学び
B	イルカやオットセイ、キリン、ライオン、恐竜などの型紙の中から好きな物を選び、割りピンを使って動物を作り、動きを楽しんでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割りピンの使い方を知る。</li> <li>・作品に動きができる仕組みを知り、作品を使っているいろいろな動きを表現して楽しむ。</li> </ul>
C	型紙を使っていくつも動物を作ったり、自分達で動物の檻や水辺を作ったりしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動物をたくさん作って、動物の森を作るのを楽しみにする。</li> </ul>
D	自分の作りたい恐竜や動物をいくつも作り、動かして遊んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作った物を動かして楽しむ。</li> <li>・達成感を味わう。</li> </ul>

今後は、割りピンを使ったからこそ感じられる面白さを考え、年長らしい発達を促す目標に向けた動機付けや環境構成を行うことで、以下のような幼児の姿や学びが得られるようにしたい。

	幼児の遊びの様子	幼児の学び
E	作った動物の足や首を動かして試している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割りピンによる動きを試したり表情の変化や面白さを感じたりする。</li> </ul>
F	自分が作りたい動物をオリジナルで作っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分がイメージしたものを表現する喜びを味わう。</li> </ul>
G	作った動物を、壁面にある森の中で動かしてみる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割りピンで動物の首や足を動かすことで、イメージが変わることに気付いたり楽しんだりする。</li> </ul>
H	自分の動物を友達に見せたり、友達の様子を見たりしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分達が作った動物が集まってできる壁面の「動物の森」を楽しみにし、達成感を味わう。</li> </ul>

### より主体的・対話的で深い学びにつなげる環境構成と援助について

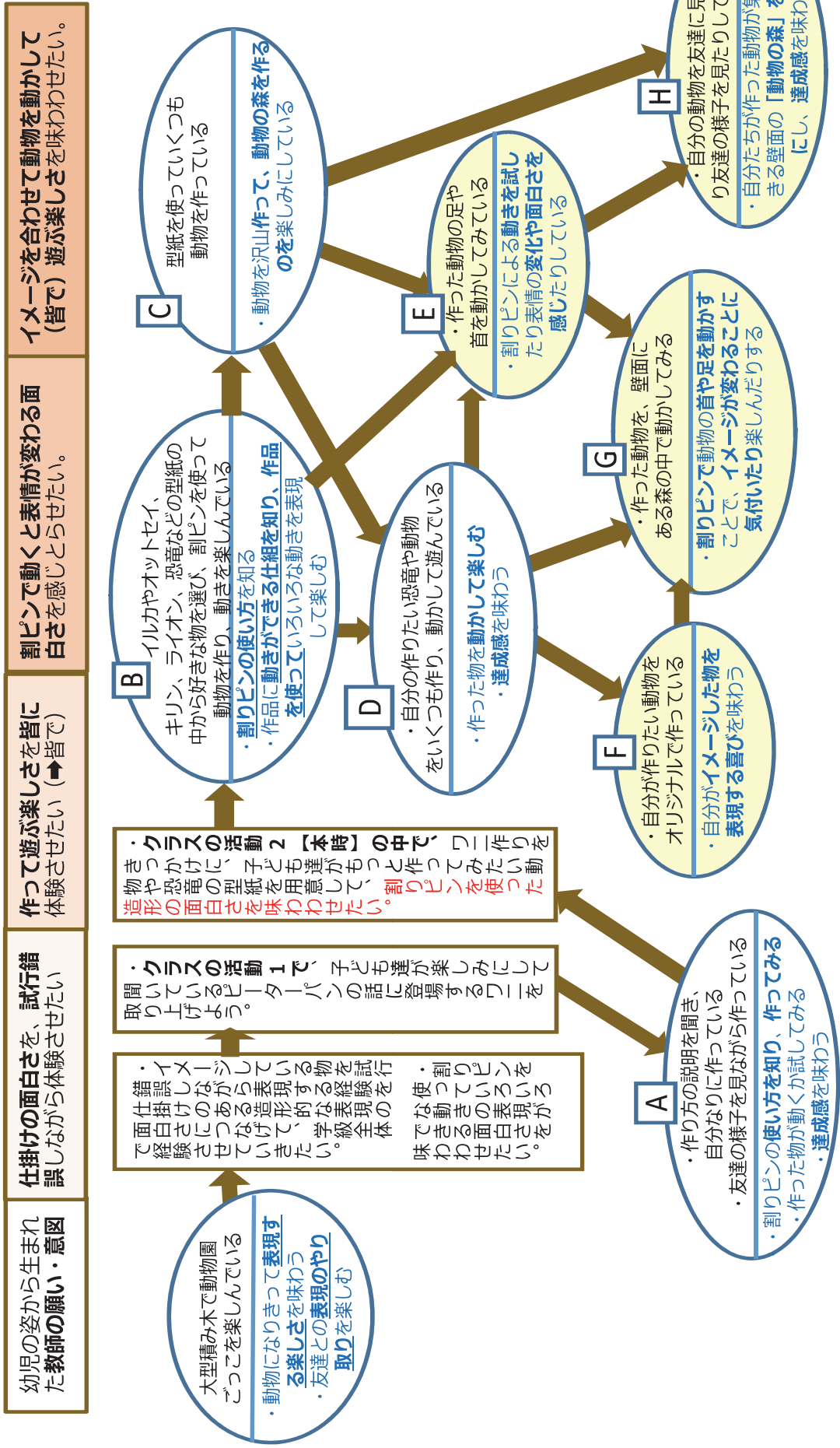
今回の実践では、割りピンといった仕掛けを遊びに取り入れた。新しい遊びを提示する際には、その遊びや教材の特性、5歳児の楽しみどころ、チャレンジしたくなるどころ、試行錯誤しながら目標に向かうところなどを具体的にイメージしながら、保育展開を考えることが大切であることを学んだ。今回のように、作った動物を檻から水辺に見立てた入れ物を壁面につけているだけだと、作った作品は首や羽をうなだれ、子ども達からは作品があまり見える状態ではなく、作ったらおしまいといった感じだった。動かしながら、自分が思ったことや考えたことを、友達と言葉でやりとりしたりする楽しさを味わってほしいと願うならば、右写真（4月のクラスでの集団活動の時間：切り紙）のように、割りピンを使った動物の裏面にストローをつけられるようにしたり、ストアハウスを身近に置いていたりしたらどうだっただろう。さらに、壁面に水辺や草むらなどと共にストローを差すことができるよう細工しておくことで、こうしてみたらどうなるだろうなどと友達とやりとりを楽しむことができたのではないかとと思われる。



〈図①〉 割りピンを使った  
学びの広がり・深まり

幼児の遊びの様子  
幼児の学び

# 動きができる動物作りの中の学びと教師の意図



## 2021年9月28日（火）5歳児さくら組「リレー遊び」

日頃から戸外で体を思いきり動かしたり、クラスみんなでルールのある運動遊びを繰り返し楽しんできた。一方でケイドロやしっぽとりなど、友達や先生と一緒に体を動かして楽しんでいるように見えるが、勝負へのこだわりや、遊びをもっと楽しくするためにそれぞれが思いやアイデアを出し合っただけで工夫しようとする姿はほとんど見られなかった。また、相手の思いや考えを聞かずに自分の思いばかりで遊びを進めていたり、強い者の意見が通りがちで言葉で伝え合ったり気持ちがつながったりしていく経験や手応えが少ないのではないかと感じていた。そのため、リレー遊びを通して“チームで勝ちたい”という思いが芽生えることで、友達と目的を共有しながらどうすることが一番よいのかを考えてほしいと願い取り組んだ。

年長児にとって成長の節目ともなる運動会に向けての集団活動の指導のあり方や、5歳児の話し合い活動について考えることができた事例である。

### ねらい（○）・内容（■）

- 友達や先生と一緒に活動するなかで、自分の力を十分に発揮しながら体を動かすことを楽しむ。
- 思いきり体を動かし、走ることの心地よさや達成感を味わう。
- 友達に自分の思いや考えを伝えたり受け入れたりしながら遊びを進めていこうとする。
- 勝負にこだわったり、友達を応援したりしながらリレーを楽しむ。
- 走ることを楽しんだり勝ち負けを経験したりするなかで喜びや楽しさ悔しさなどを味わう。

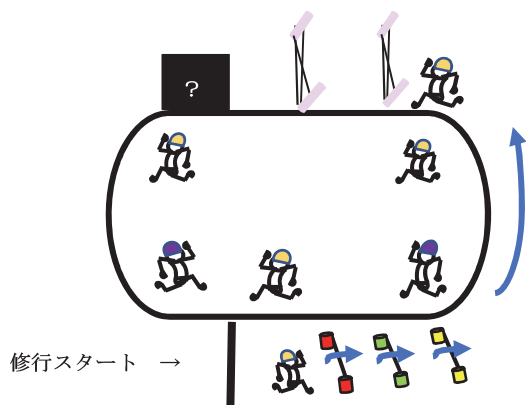
これまでのリレーのグループの決め方は、仲よしの友達同士で誘い合ったり、自分の好きな色のチームで走ったり、人数が足りないところは教師が加わり人数を調整したりしながら、子どもが自由に選択できるようにしてきた。今回は学年合同でのリレー遊びが初めてであり、話し合うことばかりにならないようにと考え、1学期から楽しんできた修行鬼の中にグループ分けの活動を取り入れ、くじ引きで偶発的にできたチームで取り組むこととした。

以下の修行鬼のルールで行い、修行を終えた子から1枚カードを引く。また、最後まで逃げ切った子どもは、終了の合図の笛が鳴った後にカードを引く。引き当てた色がリレーのチームであることを伝え、リレーの活動へ移った。

### 修行鬼ルール〈図①〉

- ・鬼は教師からスタートし、教師に1番最初に捕まった子どもが鬼になる。鬼の人数は2人～3人とし、鬼の数を少しずつ増やしていき難易度をあげていく。
- ・鬼にタッチされたらコート以外の修行場へ行き、修行を済ませたらコートに戻る。
- ・修行場はペットボトルハードル3つ、平ゴムの蜘蛛の巣くぐり2か所とした。

〈図①〉



子どもの姿	内言語	内言語につながった環境構成と援助	主体的・対話的で深い学びにつながる環境構成と援助
<p>リレーの4つのグループが決まり、走る順番をチームで決めることになった。白チームの男児2人が第一走者になりたくてバトンの取り合いをしていた。緑チームのA児がその様子をじっと見ていると、B児が仲裁に入り「順番は関係ない」と言う。続いてC児は「じゃんけんで決めたら？」と言う。B児も「じゃんけん！」とC児と同じように言った。A児はその様子をじっと見ている。その後もしばらく白チームは誰が第一走者になるかが決まらず、A児も言い合いが収まらないことやリレーが始まらないことに困っていた。</p> <p><b>B児</b>「それなら（先生が）1番とか2番とか3番とか書きちよったらよかったのに」と言い始める。</p> <p><b>T</b>「順番？でも先生はみんなに順番決めてほしいな」</p> <p><b>D児</b>「先生が決めたらいい」</p> <p><b>T</b>「先生が決めることは簡単だけど、みんなに考えてほしいな。みんなには考える力があると思うけどな」</p> <p><b>B児</b>「もう～やろう～早く～それが解決せんとできん」</p> <p><b>T</b>「緑チームは走る順番決まってる？」</p> <p><b>B児</b>「決まっちゅうよ」</p> <p>A児がキョロキョロし始め、何も言わずにB児の肩をもって順番を変えた。</p> <p><b>E児</b>「（A児の肩をもって）あなた一番速いから後ろに行ったら？」</p> <p><b>A児</b>「ううん、違う。F児ちゃんが一番前」</p> <p>A児は今度は何も言わずにC児の肩をもって順番を入れ替えた。</p> <p><b>A児</b>「よしこれで順番決まった」と言っただけでこっとする。</p> <p>次もまた何も言わずにB児の背中を押して、今度は一番後ろに連れて行った。</p> <p><b>B児</b>「でも何で私が一番後ろなが？」</p> <p><b>A児</b>「いやなが？いやなが？」</p>	<div data-bbox="694 313 957 593" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">  <p>4色の色紙を9枚 ずつはてなボックス に入れた。</p> <p>■ ■ ■ □</p> </div> <p>B・C児：早くリレーがしたい。</p> <p>A児：ジャンケンで決めたくない友達もいると思うけどな。</p> <p>T：A児は順番が大事なことに気付いていそうだけどな。</p> <p>なぜ何も言わないのかな？</p> <p>B児：早くリレーがしたい。早く決まらないかな。もう、イライラする。走る時間なくなるやん。まだ話合いするが？</p> <p>D児：順番なんてわからんもん。決めてくれたら走るで。</p> <p>T：子ども達の見解で決めていくことで、自分達で考えようとする気持ちや責任感、意欲をもつことができるのではないだろうか。</p> <p>A児：あ、自分のチームはまだ決まってない。決めなきゃ。</p> <p>A児：私の親友のF児ちゃんはこれでいいの。</p> <p>A児：足が遅い人から順番に並ばせているんだから。そうしたら勝てるはず。</p> <p>B児はクラスで一番足が速いから一番後ろがいいかな。</p>	<p>・学年合同でのくじ引きによるグループ決めであったため、「〇〇ちゃんと一緒に良かった」「〇〇チームの〇〇君、足速いから私のチーム負ける…」など様々な姿が見られた。</p>	<p>・走る順番を相談することよりもとにかくリレーをしたいという思いが強かった。まだこの時期は、順番を決めたり話合ったりする活動をねらうのではなく、走ることを楽しむことが大切ではなかっただろうか。</p> <p>・順番決めに子ども達にすべて任せってしまったことで、やる気のある子どもだけが考えや思いを出し合う活動になってしまった。また、子ども達はどのような順番で走ったらよいかを考えるよりも、リレーの気分を味わいたいと思っていたため、あらかじめ同じチームで複数回勝負してみたり、走る順番を勝負するごとに変えたりすることを伝えておくと、繰り返し取り組む中で子ども達が走る順番の大切さにも気付いていけ</p>

子どもの姿	内言語	内言語につながった環境構成と援助	主体的・対話的で深い学びにつなげる環境構成と援助
<p>[B児]「まあいいけど」と言って一番後ろに並んだ。</p> <p>[T]「これで大丈夫～？青チームも緑チームも大丈夫～？」</p> <p>[E児]「緑は大丈夫」</p> <p>[B児]「A児、私がアンカーやき」とB児が言っている間にG児とH児がB児の前に入った。その様子を見てA児はうんうんと頷いた。</p> <p>まだI児が列に入っていないことに気付いた。</p> <p>[A児]「待って待って待って待ってこうなろう」①F児→②E児→③B児→④C児→⑤A児→⑥I児→⑦H児→⑧G児の順番に入れ替えた。</p> <p>[A児]「いや、待って、ねえ、ねえ、違うこうなろう、こうなろう」とB児の腕を軽くトントンと叩き、また順番を入れ替えた。①F児→②E児→③C児→④B児→⑤A児→⑥I児→⑦H児→⑧G児</p> <p>教師が全体指導をしている間にA児は自分の思いだけで友達を動かしていた。</p> <p>[B児]「C児は弱いやん（A児の耳元でひそひそと言う）」</p> <p>[A児]「いいのよ」</p> <p>A児は何度も順番を調整していた。手で「こうこう」と指しながら誰が何番目に走るかを確認していた。</p> <p>[A児]「J児は緑やったっけ？」と緑チームの仲間が全員順番に入っているかを確認していた。</p> <p>いよいよリレーが始まるとなるとA児はさらに確認を始めた。</p> <p>[A児]「E児が一番遅いから～」と言いながら①E児→②C児→③F児→④A児→⑤B児→⑥I児→⑦H児→⑧G児の順に変更した。</p> <p>[B児]「私が追い上げちゃおき」その言葉を聞いてA児が、</p> <p>[A児]「やっぱりF児は1番に行って」と順番を変え、緑チームの順番も決まり</p>	<p>A児：B児は嫌だったのかな。聞いてみよう。</p> <p>A児：やっぱり順番変えよう。C児の順番はどうしたらいいかな。</p> <p>A児：あ、そうや。C児よりB児が速いわ。変えよう。</p> <p>A児：この順番でいいの。私の判断は間違っていないから。</p> <p>A児：みんないるよね。人数も確認しよう。</p> <p>A児：やっぱり足が遅い人から順番に並んだほうがいい。F児は足が速いからなあ。1番前じゃない。</p> <p>A児：負けていたとしてもB児が追いついてくれるかもしれない。やっぱり</p>		<p>たのではないだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担任が全体指導に追われている間に、A児はリレーの順番を足の速い友達を後半へと並べていた。友達に理由を説明しないまま自分の思いだけで誘導していたので、関わる全教員で担当チームを決めておくなど役割分担をしていると、こうした場面に教師が関わることができたのではないだろうか。</li> <li>・教師が見ていない場面で、B児が「C児は弱いやん」と言ったり、A児はB児の発言に対して「いいのよ」と受け流していたりしていたが、教師が「どうして？」と聞くなどすると、子ども達が言葉で伝え合うことができ、仲間関係もより築けたのではないだろうか。</li> <li>・一部の子ども意見で進んでいっ</li> </ul>

子どもの姿	内言語	内言語につながった環境構成と援助	主体的・対話的で深い学びにつなげる環境構成と援助
<p>リレーが始まった。</p> <p>緑チームは他のチームがバトンの渡し間違いがあったり、次に走る人が出ていなかったりしたことが重なり、アンカーのG児がゴールテープを切った。A児は自分のチームのバトンが一番につながるとうれしそうに飛び跳ねたり、手を叩いて友達を応援したりしていた。途中で勝ちを確信したようで、結果発表の前に「勝った」とB児とうれしそうに顔を見合わせた。</p> <p>次の日もリレーをした。A児はアンカーがやりたいと列の一番後ろに並んだ。その日のリレーの結果はA児のチームが最下位だった。ゴールまで走りきると涙が出ていた。</p> <p><b>T</b> 「悔しいね。でも最後まで走りきってかっこよかったよ」と言ったがA児からは何も返事はなかった。</p> <p>その日の降園活動で明日もリレーをやることを知らせるとA児が「みんなでやったら楽しいでね」と言っていた。</p>	<p>りF児が1番前でいい。</p> <p>A児：私のチームが一位やね。よかった。</p>	<p>・翌日もリレーをすることを聞き、勝っても負けても自分の力を出し切った充実感と次を楽しみに気持ちを切り替えていた。</p>	<p>ていたことから、チームで戦っているという意識は薄かったと思われる。真意が伝わるように教師が言葉を添えたり、発言していない子どもの気持ちを聞いたりとすると、チームのみんなで勝ちたいという思いをもったり、自分にできることや相手にできることを一緒に考えたりする姿につながっていったのではないだろうか。</p>

## 考察

### A児を中心とする幼児の学び

- ・ B児が「何で私が一番後ろなが？」と発言して順番を戻すなど、友達にも思いがあることに気付いて再考したり、「○○ちゃんはここで…」と日頃からよく見て知っている友達の姿から順番を並び替えたり、勝つための順番や仲のよい友達にとってよい方法を考えていた。
- ・ B児は友達の言葉を受けて、「私が追い上げちゃおき」と言うなど、勝つために自分の力を使って友達やチームを支えようとしていた。

### より主体的・対話的で深い学びにつなげる環境構成と援助について

- ・ 運動会も近づいてきたことから、教師が勝負にこだわって走る順番を自分達で決めてほしいと願っていたが、子ども達はとにかく走ってみたいという思いが強かったり、リレーの気分を味わったりしていた。学年合同で初めて行う日に、くじ引きで偶発的にできたグループで短時間のうちに話し合っただけで決めていく活動は、とても難易度が高く、盛りだくさんの内容となっていた。
- 同じチームで複数回勝負してみたり、走る順番を勝負するごとに変えてみたりするなど、子どもの思いや考えに沿いながら、実態に合った活動展開を考える。



- ・集団活動では全体を進めていくことに必死になってしまっていた。  
→関わる全教員で担当チームを決めるなどし、適切な友達との関わりがもてるような言葉を添えたり、子どもの人間関係に丁寧に関わったりする援助の重点をすり合わせておく。
- ・活動の前に「何回もできる」ことを伝えていなかったこともあり、1回で走る順番を決める雰囲気となり、話し合いが長引いてしまった。  
→リレー遊びが2回目3回目もあることを伝えておけば、子ども達も“とりあえずやってみようか”  
“次があるならこれでもいいか”という思いで取り組むことができたのではないだろうか。  
また、日頃からリレー遊びをたくさん経験していれば、相手の力を理解し走る順番などを決めることができたのかもしれない。行事に向けての活動ではなく、日頃の遊びの中で何度も繰り返し楽しめるようにしていきたい。

### 研究協議で学んだこと、今後に向けて

行事に向かう活動のなかで教師の願いと子どもの姿との間にずれがあったことを、リレー遊び全体を通して感じた。運動会に向けての焦りや到達度を求めてしまい、本当に子ども達に経験してほしいことやねらっていることが曖昧になってしまった。もう少し早い時期からたっぷり遊び込み、完成形を求めるのではなく、相手の思いを受け入れたり、自分の思いを伝えたりしながら遊びを進めていこうとしたり、勝ったり負けたりいろいろな感情体験をするなかで友達のよさや互いを思いやったりする姿を大切にしていける保育を目指したいと思った。

11月下旬頃、異年齢の友達を誘い合って年長児がリードしながらリレー遊びを進めていた。年中児から「私は足が遅いもん」という消極的な思いが出たり、人数が合わなかったりして困っていると、「私が追いついてあげるから」「ここならできそう?」「人数が揃ってないと面白くないよ」「私がそっちのチームに入ろうか?」と積極的に年中児とやり取りをしている年長児の姿が見られた。自分達が経験したことや学んだことを生かしながら遊びを進めていこうとしていた姿から、行事の日がゴールではなく、そこへ向かうまでの過程やその後の遊びが続いていく姿こそが幼児期に必要な学びであることに気付くことができた。



## V 研究内容2 ドキュメンテーションの取り組み

### (1) ドキュメンテーションのはじまり

子ども達の園での遊びや生活を通した学びを保護者に伝えたいと思い、2018年2学期からドキュメンテーションを作成してきた。

主にドキュメンテーションとして作成するのは保護者が参加していない行事や日頃の遊びの様子などで、全クラス子ども達が同じ回数登場するようにし、幼児期の終わりまでに育ててほしい姿（以下、10の姿と記す）などを示すようにした。すると、熱心に見入ったり、10の姿の一覧がほしいと関心を寄せる保護者の姿があった。しかし、“わが子探しの1つ”にとどまっていた姿も見られ、何とか改善したいと思っていた。

そこで、保護者の“わが子探し”から脱却できるようにと願い、2019年度から次ページの〈表③〉に示すように、少しずつ工夫しながら取り組んできた。

### (2) ドキュメンテーションの実際

本年度は、2週間に1回1クラスが掲示するようにしていた。本紀要では、年中うめ組と年長さくら組の2つを掲載する。

#### 「びっくりまつぼっくり」 年中うめ組

『びっくりまつぼっくり』という絵本を読んだ日の次の朝、A児が水の中で小さくなったマツボックリを見て「しょんぼりマツボックリになってるー！」と叫びました。B児は「実験したい」と言いました。みんなで水の中に開いているマツボックリを入れました。水に入れた途端（閉じていないにも関わらず）、「うわー！ちっちゃくなってる！」「ほんとだ！」と次々に子ども達が叫びました。園庭で鬼ごっこをしながら、時々マツボックリを確認します。片付けの時には、全部閉じていました。「すごーい」とみんなで驚きました。



次の日、C児が水にぬれて小さくなったしょんぼりマツボックリをヨーグルトのカップに入れました。帰る時には下の方が少し開いていました。「まだや！月曜日変わっちゃうかもしれない！」とにこにこで帰っていきました。休み明けの月曜日、マツボックリは見事全部開いていました。「びっくりマツボックリだー！」と子ども達が喜んでいました。




「マツボックリ」を通して、自然物の形が変化する不思議さを感じるとともにその特性を知る素敵な時間になりました。

#### 「ドングリが浮いてる！何で！？」 年長さくら組

雨の翌日、たくさんのドングリが総合遊具のあたりに落ちていました。D児も砂場から入れ物を持ってきてドングリ拾いに没頭していました。地面が濡れていたこともあり、ドングリに砂がたくさんついていました。D児は「水できれいに洗わないかん」と言い、ドングリを集めた容器に水を注ぎ、お米を研ぐようなしぐさでかき混ぜて洗っていました。そして「ドングリが浮いてる。何でやる…」とつぶやきました。その言葉にE児がドングリを水に浸して遊んでいたことを思い出しました。教師は「そう言えばEちゃんもドングリを水につけよったね」と言いました。

〈表③〉ドキュメンテーション3年間の変遷

	2019年度	2020年度	2021年度
取り組み内容	<p>5歳児→4歳児と約1週間ごとに“今、子ども達の何が育とうとしているのか”“それは10の姿のどこにつながっているのか”がわかるよう、エピソードを掲載する。</p> <p>保護者がドキュメンテーションを読んでも感じたことを交流し合えるよう、無記名で付箋に感想を書いて掲示できるボードを用意する。</p> <p>より多くの保護者に見てもらいたい。</p> <p>各学年のお迎え場所に合わせ、掲示場所を変える。</p> <p>掲示期間を終了したものは、A4版に縮小して玄関に掲示する。</p> <p>じっくり読んでもらう場所にし、内容を増やそう。</p> <p>異年齢交流や年長の行事や取り組みなども取り上げる。</p> <p>2学期にヒットした各学年の遊びをポスター形式※1で紹介する。</p> <p>他の研究に時間を取りたいが、教員一人一人の幼児の内面を理解したい。</p> <p>協議時間を1時間以内に設定し、各クラスのドキュメンテーションについて協議する。</p>	<p>保護者への保育理解に向けて</p> <p>園内研究の取り組み</p> <p>新たな願い</p> <p>他の分掌業務とのバランスをとりたい。</p> <p>2週間に1回1クラスが掲示する。</p> <p>掲示期間を終了したものと併せて、前年度の同時期のドキュメンテーションをA4版で掲示する。</p> <p>1学期の子どもの育ちや学びがわかりやすいクラス便りを各クラス1枚掲示する。</p>	<p>2021年度</p>
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々の姿や場面の切り取り取り方が大切であることがわかった。</li> <li>ドキュメンテーションが媒介となって保護者と教師の話題が増えた。</li> <li>写真や提案資料について質問し合うことで、様々な角度（視点）から子どもを理解することができた。</li> <li>担任からの説明や質疑応答もあるので、子どもの心の動きを読み取りやすかった。</li> <li>写真の中心人物だけでなくそれぞれの子どもたちの表情を見て、幼児理解が深まり、写真の見方も変わった。</li> <li>時間が経って思い出すと事実と違う部分も出てくるため、動画も活用するようになった。</li> <li>短時間で保育を共有し協議を行うためには有効な手段であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>掲示場所を変えたことで、保護者の目に触れる機会が増え、教師とのやり取りも増えた。</li> <li>ポスター※1を作製することで、普段のドキュメンテーションとは違った角度から幼児理解を深めることができた。</li> </ul>	<p>※1：ポスター一例</p> 

近くにいたE児が「そうで。虫に中身食べられちゅうき浮くがで」と言ったので、D児は「へえー、そうなんや」と、浮いていたドングリを入れ物から取り除き始めました。教師が「浮いているドングリは捨てちゃうの?」と言うと「虫が入ってない新鮮なドングリがいい」と言って黄緑がかったドングリを集めていました。また、その後見つけたドングリは1つずつ水に入れて浮くか沈むかどうか確かめていました。

クラスでは浮くドングリは中に虫がいるという噂が広がり、拾ってきたドングリは一度水に浸すことが自然に行われるようになりました。

秋の自然物が、子ども達の「不思議」と出会うきっかけとなりました。遊びの中で不思議に思ったことを自分なりに試したり、調べたり、友達に聞いたりして、興味関心をもって何度もかかわり、工夫したり試したりする姿を大切にしていきたいです。



### (3) 保護者アンケート

本年度の研究のまとめにあたり、保護者にこれまでの取り組みと、各年齢や時期による子どもの遊びや学びについて知ってもらいたいと願い、3年間のドキュメンテーションを年度ごとにまとめて正面玄関の近くに掲示した。



その後、ドキュメンテーションによる取り組みを保護者や子どもがどのように感じているか、一斉メールを活用して、全家庭対象にアンケートを実施した。アンケートの内容と結果は以下のとおりである。

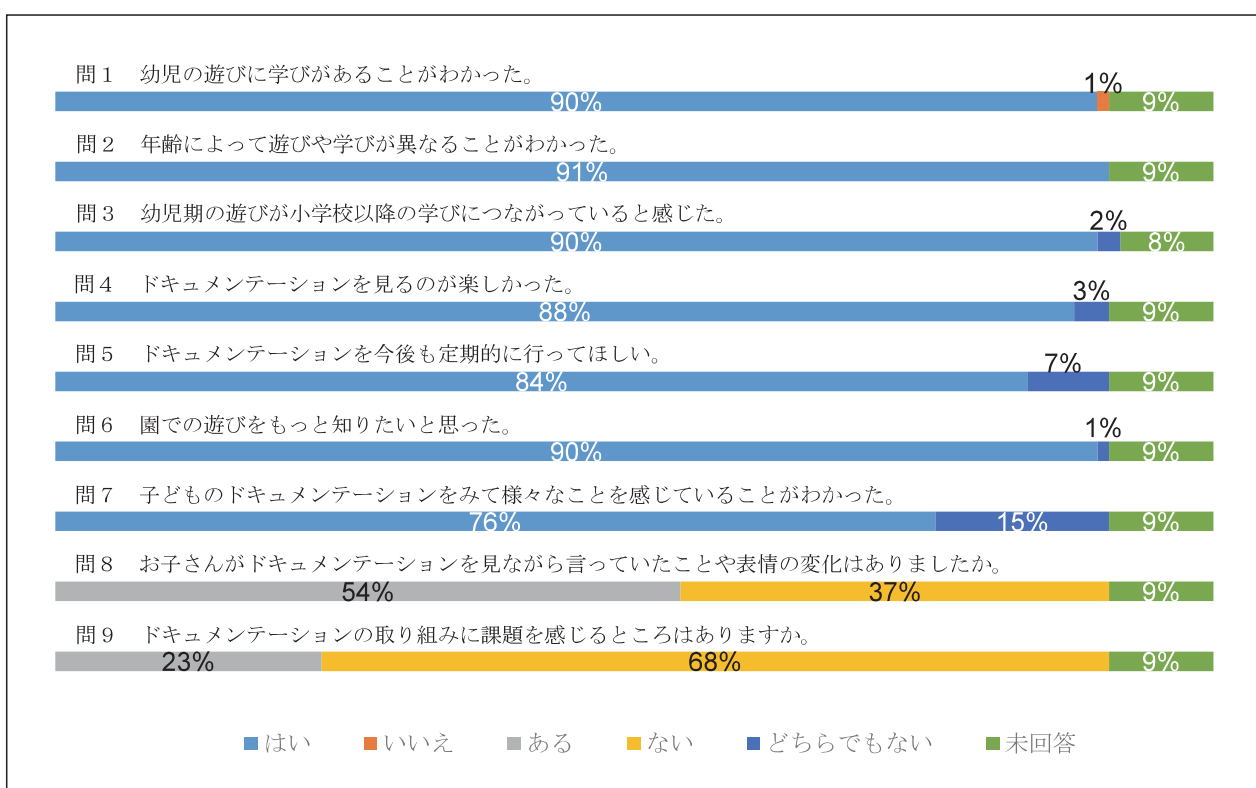


#### ①アンケートの内容

- |     |   |                       |     |         |
|-----|---|-----------------------|-----|---------|
| 問1  | 幼児の遊びに学びがあることがわかった。                       | はい                    | いいえ | わからない   |
| 問2  | 年齢によって遊びや学びが異なることがわかった。                   | はい                    | いいえ | わからない   |
| 問3  | 幼児期の遊びが小学校以降の学びにつながっていると感じた。              | はい                    | いいえ | どちらでもない |
| 問4  | ドキュメンテーションを見るのが楽しかった。                     | はい                    | いいえ | どちらでもない |
| 問5  | ドキュメンテーションを今後も定期的に行ってほしい。                 | はい                    | いいえ | どちらでもない |
| 問6  | 園での遊びをもっと知りたいと思った。                        | はい                    | いいえ | どちらでもない |
| 問7  | 子どもがドキュメンテーションを見て様々なことを感じていることがわかった。      | はい                    | いいえ | どちらでもない |
| 問8  | お子さんがドキュメンテーションを見ながら言っていたことや表情の変化はありましたか。 | ある (自由記入欄にお書きください)    | ない  |         |
| 問9  | ドキュメンテーションの取り組みに課題を感じる場所はありますか。           | ある (自由記入欄に課題をお書きください) | ない  |         |
| 問10 | その他、ご意見やご感想がある方はお書きください。                  | ある (自由記入欄にお書きください)    | ない  |         |

## ②アンケートの結果

	はい・ある	いいえ・ない	どちらでもない	未回答
問1	90%	1%	—	9%
問2	91%	0%	—	9%
問3	90%	0%	2%	8%
問4	88%	0%	3%	9%
問5	84%	0%	7%	9%
問6	90%	0%	1%	9%
問7	76%	0%	15%	9%
問8	54%	37%	—	9%
問9	23%	68%	—	9%



問1～6までは約9割、問7でも約8割近くの保護者が肯定的回答をしており、ドキュメンテーションを好意的に受けとめていることがわかる。

また、問8の自由記述で以下のような子どもの姿についての記述があった。

- ・自分が関わった遊びをうれしそうに話してくれた。
- ・友達の体験を受け、気付きや学びになっている。
- ・幼児期に大切な自然物の感触やにおいなどをたくさん感じていてとてもいいと思った。
- ・その時の様子を振り返り、自信につながっている。
- ・他学年の取り組みにも興味を示し、進級を楽しみにしている。
- ・分からないところは質問していた。
- ・他学年のクラスの子の名前をよく知っている。異年齢交流ができている様子が窺えた。
- ・遊びを通して学びにつながっていることがよくわかった。

問9・10における自由記述は、以下のとおりである。

- ・目的がいまいちわからない。
- ・文字量が多い。
- ・見出しがあると読みやすい。
- ・ドキュメンテーションに取り上げた遊びの変容も知りたい。
- ・帰る人とぶつかりにくい場所に掲示してはどうか。
- ・預かり保育の利用や下の子がいて、家でもゆっくり見ること（ネット配信、メール、配布など）ができればありがたい。
- ・写真をもう少し見やすくしてほしい。
- ・子どもと直接関わる時間が削減されているようであれば、作成回数を減らしてはどうか。

#### （4）教員アンケート

保育補助員を含む全教員を対象に、この3年間の取り組みを振り返るアンケートを実施した。その結果でわかった、「具体的な変化・変容」と「課題や今後の改善点」は以下のとおりである。

##### ①具体的な変化・変容

- ・3年間を通して、ドキュメンテーションの内容が変化している。各担任は子どもが心を動かしているのはどこか、何を楽しんでいるのかなど、子どもを見る目が高まっているのではないかと。
- ・普段あまり意識できていない10の姿の視点で保育を振り返ることができた。
- ・書くことに抵抗がなくなった。
- ・一定間隔で、学年クラスに偏りなく発信できたように思う。
- ・保護者だけでなく、子ども達も見ている姿がある。遊んでいることがどのような学びや成長につながるのか具体的でわかりやすく伝えられたと思う。
- ・玄関、通園路で掲示したことで、保護者に見てもらえる機会が増えたのではないかと。
- ・写真とわかりやすい子どもの姿の説明付きで、保護者が見ても、意図や気づきに役立っていると思う。

##### ②課題や今後の改善点

- ・場面の選択や伝え方のスキル、文章の構成やそれをより具体的に伝える写真の見せ方などが、まだ十分ではないと感じる。これからもドキュメンテーションを用いた協議を行いたい。
- ・書く量が多くなってしまいやすいため、端的に伝えることを意識して行っていきたい。
- ・2クラスある年中と年長は、順番が連続的なため同じ時期になる。年中と年長は交互にするなどして、様々な時期の子ども達の姿や学びについて知ってもらえるようにすると、保護者の学びが深まるのではないかと。
- ・コロナのため、保護者の来園機会が減り、ドキュメンテーションをゆっくり見ってもらうことが少なくなっている。一部の保護者だけが関心をもつのではなく、多くの来園者に見てもらえるような工夫が必要である。

#### （5）まとめ

ドキュメンテーションは、子ども達の幼稚園での遊びや生活について保護者の関心を高めるための1つの手段として始めたが、研究に位置付けて取り組み始めたことにより、幼児期の子どもの学びや

遊びの意味について、教員一人一人の理解が深まり、保育実践にもつながっていった。

保護者アンケートでは、「幼児の遊びに学びがある」「年齢によって遊びや学びが異なる」「幼児期の遊びが小学校以降の学びにつながっている」ことへの理解が90%以上あり、ドキュメンテーション開始時の目標であった「子ども達の園での遊びや生活を通した学びを保護者に伝える」ことが、達成されていると言える。また、「ドキュメンテーションを見るのが楽しい」「ドキュメンテーションを今後も定期的に行ってほしい」「園での遊びをもっと知りたい」が90%近くあり、継続的な取り組みへの期待も窺える。今後は、文字量を抑えた読みやすさや、様々な事情を抱えた保護者がゆっくり見られるような方法を工夫することにより、本来の目的理解がさらに深まるようにしたい。

教員アンケートでは、「子どもを見る目が高まっている」「書くことに抵抗がなくなった」と変化を実感する声も聞かれ、ドキュメンテーションが保育の質向上に向けての有効な取り組みになっていることがわかる。また、学期に1回程度の振り返りであったが、定期的に成果や課題を整理し、次の工夫や改善策を話し合いながら取り組んできたことで、自然とドキュメンテーションのPDCAサイクルが定着し、現状で満足しない教員集団になってきている。今後は、ドキュメンテーションで伝えたい保育と、作成が楽しいドキュメンテーションを目指して、この取り組みを継続していきたい。

## VI 研究内容 3 教育課程の改善

教育課程は各園の教育内容を表すものであり、編成後は「教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと」となっている。本園では、昨年度5領域（健康、人間関係、環境、言葉、表現）に基づいて再編成した教育課程を、さらに充実したいと思い、実施状況を確認しつつ、内容の充実に向けた作業を行った。

### （1）主な改善点

教育課程の内容の充実に向けて、主に以下の2つを改善した。

#### ①各期の子ども姿を記載する。

入園当初の子ども姿から、各領域に関するねらい・内容に基づく保育を行っていくことで見られる本園の子ども達の姿を、各学年、各期に記載することとした。

#### ②全期に5領域に関するねらい・内容を記載する。

昨年度再編成した教育課程には、領域によってはねらい・内容が記載されていない期が存在していたため、改めて全体のバランスや実践から加筆し、全ての期において5領域のねらい・内容を記載することとした。

### （2）様式の変更点

記載内容の充実に伴って、①の昨年度の様式から、②の様式へと変更した。変更理由は②に示したとおりである。

#### ①令和2年度の様式

月		4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
期		1		2		3		4		5		
5つの領域におけるねらい・内容	健康	○	■									
	人間関係											
	環境											
	言葉											
	表現											



②令和3年度の様式

月		4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
期		1		2		3		4		5		
この期に見られる子どもの姿		各期に見られる子どもの姿を記載できるように挿入した。										
5つの領域におけるねらい○・内容■	健康	○	■									
	人間関係	各領域に示されたねらいや内容は、相互に関連をもちながら達成されていくものであることから、点線とした。										
	環境											
	言葉											
	表現											

子どもの育ちには個人差があるため、斜め線とした。

各期に見られる子どもの姿を記載できるように挿入した。

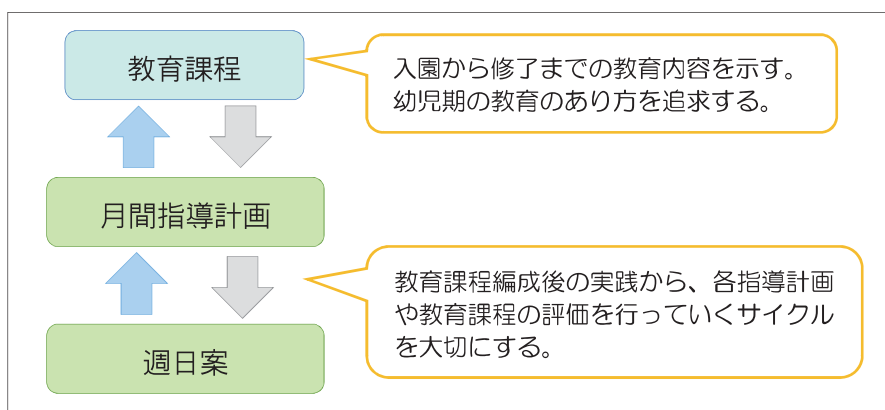
各領域に示されたねらいや内容は、相互に関連をもちながら達成されていくものであることから、点線とした。

(3) 教育課程の役割と実践

幼稚園においては、幼児はそれぞれ興味や関心に応じ、直接的・具体的な体験などを通じて幼児なりのやり方で学んでいくものであって、小学校以降の学習と異なり、教師があらかじめ立てた目的に沿って、順序立てて言葉で教えられて学習するのではない。幼児が、遊びを通じて、学ぶことの楽しさを知り、積極的に物事に関わろうとする気持ちをもつようになる過程こそ、小学校以降の学習意欲へとつながり、さらには、社会に出てからも物事に主体的に取り組み、自ら考え、様々な問題に積極的に対応し、解決していくようになっていく。

この幼児期ならではの学びのあり方を具現化する教育課程を編成し、具体的な保育実践につなげていくことが求められる。本園では、この教育課程を基に、長期の指導計画である月別指導計画の作成と実践・見直し、短期の指導計画である週日案の作成と実践・見直しにより、子ども達の確かな学びを保障していきたいと考えている〈図②〉。

〈図②〉 教育課程の評価と改善のサイクル



#### (4) 教育課程の実際

本年度新たに改善した教育課程は、39ページ以降に示すとおりである。

#### (5) 成果と課題

本年度の教育課程改善の取り組みを通して、以下のような成果が得られた。

- ・再編成した教育課程の内容を新たな教員と共に共通理解することができた。
- ・互いの保育観を共有しながら保育実践とのすり合わせを行うことができた。
- ・協議を通して考えたり理解したりしたことを受けて、各期に示しているねらいや内容につながる子どもの遊びを取りあげて学年便りやクラス便りを書くなど、教育課程の内容を保護者と共有しようとする教員の姿が見られた。

このように、教員一人一人が、教育目標に示す保育のあり方を、教育課程を基に考え、実践していることと姿勢につながったことが大きな成果と言える。

一方、各クラスの保護者対象に行っているクラス会において、教育課程に示している内容を具体的にわかりやすく伝えることに課題意識をもっている教員が多く、自分や園の保育について語っていく説明力をつけていくことが今後の課題である。また、学年間での連続性や、月別指導計画とのつながりについて考慮しながら教育課程を運用していくことが望まれる。

資料①

3年保育 年少組 教育課程

月	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	
期	1		2		3		4		5			
この期に よく見られる 子どもの姿	幼稚園生活の始まり・先生と一緒に		やってみたいことが増えてきて		先生や友達といろいろな遊びを楽しむ		友達と一緒にいることが楽しくて		園生活にすっかり慣れて			
	家庭での経験や月齢、保育経験などの違いによって、個人差が非常に大きい。初めての体験に、園生活を楽しみに喜んで登園する子どももいれば、緊張や戸惑い、不安を感じている子どももいる。先生と一緒に遊んだり、身のまわりのことをしたりするなかで、先生への信頼感や園生活への安心感が少しずつ芽生え、だんだんと幼稚園での生活の仕方がわかってきて、自分の好きな遊びを思い思いに楽しむようになる。		幼稚園に慣れ、安心して過ごすことができるようになってくる。表情も明るくなり、おしゃべりも増え、体の動きも活発になる。先生やまわりにいる友達と、同じ場でいろいろな遊具や素材、道具を使い、思いのままに遊ぶ楽しさを味わったり、気に入った友達と一緒にいることを求めたりし始める。園が安心して過ごせる場になって、自分の思いを出し、したいことを楽しむようになる。要求のぶつかり合いや思いの食い違いなども起こりがちである。		自分のしたいことがはっきりしてきて、いろいろな感情を表現するようになる。仲のよい友達と一緒に遊ぶことが多くなり、ごっこ遊びを楽しんだり、同じものを作ったり、戸外で体を動かしたりなど、いろいろな遊びを楽しむ。友達を求める気持ちが強くなってきて、運動遊びを中心に、年中・年長児との関わりも増える。まだ、自分の楽しみが優先なので、仲よく遊んでいるかと思えば、いざこざになることもある。		友達同士の関わりが増えるなかで、保育室を拠点とし、一緒にいたい友達と気に入った場所で遊ぶようになる。同じ場で過ごすことを喜び、友達と同じことを言ったり、同じ物を持ったり、使ったりして自分の思いを表現することを楽しむ。		園生活に必要なことがわかり、できることを自分からしようとする姿が見られるようになる。保育者に励まされながら様々なことに取り組み、できたことを喜び、大きくなったことを感じるようになる。 自分のやりたい遊びを進んで楽しんだり、仲のよい友達と同じイメージのなかで遊んだり、思っていることやしたいことなどを言葉や動きで表しながら遊ぶようになる。また、進級することへ期待をもち、これまで以上に園生活をはりきって送るようになる。			
	健康	○園生活に慣れ、安心して過ごす。 ■自分の好きな遊具や遊びを見つけて遊んだり、園での生活の仕方を知ってやってみようとしたりする。 ■先生や友達と弁当を食べることを楽しむ。		○自分でできることは、自分でやってみようとする。 ■衣服の着脱やお弁当の準備など、自分でやってみようとする。 ○戸外のような場や固定遊具などに親しみ、のびのびと遊ぶ。 ■先生やまわりの友達と一緒に小山や固定遊具に上がったり、降りたり、前庭を走り回ったりすることを楽しむ。 ■乗り物で興味のある場所へ行ってみる。		○いろいろなことに興味をもって、自分の思いを表しながら遊ぶ楽しさを味わう。 ■ごっこ遊びに仲間入りして自分の思いを表したり、いろいろな物やことに興味をもってイメージを広げて遊んだりする。 ■戸外に出て遊ぶことを喜び、保育者と一緒に追いかけて遊んだり、気に入った遊具で遊んだりして、体を動かすことを楽しむ。		○園での生活の仕方がわかり、進んで身のまわりのことをしようとする。 ■自分の身のまわりのことをできるだけ自分でしようとする。		○先生に教えてもらいながら、病気の予防などに必要な活動を行う。 ■先生や友達と一緒に風邪の予防のために手洗いやうがいをしようとする。 ■苦手なものでも少しでも食べてみようとする気持ちをもつ。		
	5つの領域におけるねらい○・内容■	○先生や友達と一緒にいる心地よさを感じる。 ■同じ場にいる友達、同じ遊具で遊んでいる友達と触れ合う。 ■先生に親しみをを感じる。		○自分の好きな場や物、遊びを見つけて、繰り返し遊ぶことを楽しむ。 ■様々な遊具や素材、場所の中から、自分で好きな遊びを選んで繰り返しやってみる。		○生活の仕方がわかり、自分なりに自信をもって生活を進めていこうとする。 ■遊びや生活のなかで、やりたいと思ったことや、やらなければならないことを、自分でやってみようとする。		○共同の遊具や用具などを大切にし、みんなで使う物であることに気付く。 ■個人の物とみんなの物とがあることに気付き、大事に扱う。 ○一緒にいたい友達ができ、自分から関わっていく。 ■一緒に遊びたい友達と同じ場で遊んだり、同じことを言ったり、同じ物を持ったりして自分の思いを表現する。		○自分の思いだけでなく、よいことや悪いことがあることに気付く。 ■言うてはいけないことやしてはいけないことに気付き、自分なりに考えて行動しようとする。 ○仲のよい友達と同じイメージのなかで遊ぶことを楽しむ。 ■自分なりの動きや言葉で友達にイメージや思いを表現する。		
	環境	○様々な自然に触れて、面白さや不思議さを感じる。 ■発見を喜びながら、春の自然や砂、土、水に触れて遊ぶ。 ■身近な生き物を見たり、触れたりし、面白さ、不思議さを感じる。		○思いのままに、いろいろなものに触れながら、ものの性質に気付いていく。 ■砂や土、水、様々な遊具や素材に思い思いに関わり、変化する様子を楽しむ。		○初秋の自然の様子に興味をもち、遊びに取り入れる。 ■木の実や葉、虫など秋の自然に触れて親しんだり、遊びに取り入れたりする。 ○日常生活の中で簡単な数や順番等に関心をもつ。 ■先生や友達と数を数えてみたり、順番にしたりしようとする。		○自然などの身近な事象に興味をもって関わり、見たり触れたりする。 ■秋の自然や雨や風などに、心を動かされ、見たり、触れたりして遊ぶ。		○冬や春の様々な自然に触れるなかで、様々なことに気付く。 ■冬や春の訪れを園庭の植物や自然現象等から気付き、親しみをもって関わろうとする。		
言葉	○先生の話に興味をもったり、自分の言葉を先生に受けとめてもらう満足感を得たりする。 ■繰り返しのある絵本や紙芝居を読んでもらい、お話を楽しむ。 ■先生の話に親しみをもち、聞いたり、話したりする。		○したり、見たり、心が動いたことを自分なりに言葉で伝えようとする。 ■先生や友達に、驚いたこと、できたことなどを、自分なりの言葉で伝えようとする。		○生活の中で必要な言葉がわかり、したいこと、してほしいことを先生や友達に伝える。 ■遊びや生活のなかで、必要な言葉がわかり、使ってみる。		○絵本やお話に興味をもち、繰り返し楽しむ。 ■簡単なストーリー性のある絵本や紙芝居を喜んで見る。 ■他の学年の出し物を見たり、みんなで歌ったりする。		○リズムのある言葉の楽しさに気付く。 ■繰り返しのある絵本などに親しむことで、リズムのある言葉を喜んで使って遊ぶ。 ■自分の経験したことを進んで話したり、聞いたりする。			
表現	○様々な自然や素材、用具に出会い、色や形、感触を楽しむ。 ■草花や木の実に触れて色や形を楽しんだり、砂や粘土の感触を楽しんだりして遊ぶ。 ■身近な用具の色や形を楽しみながら思いのままに描く。		○感動したことを伝える楽しさを味わう。 ■感動したことを先生や友達に伝え、受けとめてもらう。		○先生や友達と一緒に動いたり踊ったりする楽しさを味わう。 ■先生や友達の動きを真似ながら、一緒に歌ったり踊ったりする。		○いろいろな材料や用具に関心をもち、イメージしたことを喜んで描いたり、作ったりする。 ■木の実や落ち葉などの音、色、形、香りに心動かし、イメージする。 ■身近な素材や用具からイメージを広げて、思いのままに描いたり、作ったりする。		○先生や友達と一緒に、歌や簡単なリズム遊び、劇ごっこの楽しさを味わう。 ■友達と一緒に、歌ったり、楽器を鳴らしたりすることを楽しむ。 ■クラスみんなで劇ごっこをするなかで、好きな登場人物になり、自分なりの動きや言葉で表現することを楽しむ。			

資料②

2, 3年保育 年中組 教育課程

月	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3		
期	1		2			3		4			5		
子どもの姿 よく見られる この期に	先生や友達と一緒に・新しい生活の始まり		好きな遊びを思いきり			自分の思いや力を出しきって・自分とは違う思いもあることに気付く始めて		友達とイメージや気持ちがつながってきて			進級への期待をもって		
	年少時には1クラスであった子ども達が、進級時には2クラスに分かれ、新入児を迎えて新しい年中組が始まる。入園や進級により、どの子どもも新しい環境に期待感をもっている一方で、緊張している姿や不安な様子も見られる。また、次々に遊びが変わったり、先の見通しがないまま、いろいろな場所へ出かけたりしていく子どももいる。先生のそばで遊んだり、知っている友達と遊んだりするなかで、少しずつ落ち着き、その子らしさが出てくる。友達がするのを見たり、真似したりするなかから好きな遊びが見つかっていく。		好きな遊びと一緒に遊びたい友達が見つかり、誘い合っ遊びを始める姿が多くなる。また、自分らしさを出し始め、言葉のやりとりなども増え、クラスがにぎやかになる。友達や先生と遊ぶなかでしたいことがはっきりして、ひとつの遊びを繰り返し楽しむようになる。自分がやりたいことを続けたくて、片付ける気持ちになるまで時間を必要とすることもある。それぞれの主張が強くなり、物や場の取り合いが多くなる。			友達や先生と一緒に、少し難しそうなことにも自分の力を試したり、挑戦したりしながら、遊びを楽しむようになる。また、自分ができるようになったことを先生に認めてもらいたい気持ちが多くなる。 今まで関わりの少なかった友達とも、思いを出し合いながら遊ぶ姿が見られ始める。友達に自分の思いを受け入れてもらったり、時には受け入れてもらえなかったりすることを通して、少しずつ相手はこうしたいんだなという思いがわかるようになる。その一方で自分はこうしたいという思いもしっかりあって、それを抑えきれない姿も多い。自分の思いを通してしまった後で、自分の思いと相手の思いが違うことに気付いて心がゆれ、戸惑いを感じる子どももいる。遊びや生活など、いろいろな場面で見通しをもつことができるようになってくる。		気の合う友達と思いを出し合っ遊びが増え、お互いに遊びのイメージがつながっていき、大人数で遊ぶ楽しさがわかってくる。自分の気持ちを優先しがちではあるが、ルールを守ろうとしたり、友達の様子を意識して行動しようとする気持ちが強まってくる。また、今までしようとしなかったことや新しいことにも、友達から刺激を受け、自分もやってみようとする意欲が出てくる。			自分の気持ちや考えを友達や先生に伝えたり、遊びに必要なルールを友達と一緒に考えようしたり、自分の力を発揮しながら遊びや生活を進めていこうとする。 みんなと一緒に過ごすことが楽しいと感じると、友達や先生の話の聞いたり、行動を見たりして、そのよしあしを考えたり自分がよいと思ったことをしようとする。 年長児の真似をしたり、いろいろなことを教えてもらったりして、進級することへ期待が大きくなる。		
	健康	○新しい環境に慣れ、安心して過ごす。【新入児】 ■先生や友達と一緒に、好きな遊びを見つけて遊ぶ。 ■園での生活の仕方を知り、自分でやってみようとする。 ○進級した喜びを感じ、新しい環境に慣れ、遊びや生活に進んで取り組む。【進級児】 ■気の合う友達と一緒に好きな遊びや場を見つけて存分に楽しむ。 ○先生や友達と一緒に思いきり体を動かして遊ぶことを楽しむ。 ■固定遊具や乗り物などで、いろいろな動きや感覚を繰り返し楽しむ。		○様々な活動に興味や関心をもち、楽しんで取り組む。 ■友達や先生のことを真似たり、取り入れたりして活動することを楽しむ。 ■思いを巡らし、試したり、繰り返ししたりして遊ぶことを楽しむ。			○遊びや生活に必要なことを、友達や先生と考え、一緒にやってみようとする。 ■遊びの準備や片付け、衣服の着脱など、自分にとっての必要性からやってみる。 ■生活や遊びのなかで困ったことなどを先生や友達と考えながら、きまりや約束の大切さに気付く。 ○運動遊びに興味をもって自らしようとする。 ■いろいろな動きを楽しむ。 ■いろいろな運動遊びに興味をもち、戸外に出て思いきり体を動かす。		○先生や友達と一緒に野菜の栽培を通して、食べ物への興味・関心をもつ。 ■年長の行事で食べる野菜の植え付けなどを通して、食べ物に関心をもつ。 ■苦手な食べ物を少しでも食べてみようとする。 ○自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動をする。 ■手洗い、うがい、歯磨き等を進んでする。 ■身体測定などを通して、大きくなった喜びを感じる。			○年長児のやっている係の仕事や当番活動などを引継ぎ、進級することへの期待をもつ。 ■年長児から園の仕事を引き継ぎ、進級することに期待したり、大きくなることへの喜びを感じる。	
		人間関係	○先生や友達に親しみをもち、一緒にいる楽しさや心地よさを味わう。【新入児】 ■先生のしていることを真似したり、一緒に遊んだりする。 ■まわりにいる友達に興味をもち、面白そうなおもちゃを使っているものを真似して遊ぶ。 ○自分のやりたいことを見つけ自分で考えて行動しようとする。 ■友達の楽しそうにしている姿や持っている物を見て、自分も同じようやってみようとする。		○友達との関わりのなかで、喜びや悲しみなど様々な感情を共感し合う。 ■友達や先生と一緒に遊びや生活を通して喜んだり、悲しんだり、悔しがったりする。 ○みんなで使う共同の遊具や用具などの大切さを知り、大事に使う。 ■共有の遊具や用具など、個の持ち物と同じように大事に扱う。 ■共同の物を自分も相手も使いたいことを知り、先生と一緒にどうしたらよいか考える。			○いろいろな遊びを繰り返ししたり、試したりするなかで、満足感や達成感を味わい、やり遂げようとする気持ちをもつ。 ■やりたい、面白そうと思ったことを、満足するまで繰り返ししたり試したりして遊ぶ。 ■やりたいことができるようになったり、先生や友達に認められたりすることで自信をもつ。 ○自分の思いが伝わる喜びや相手の思いを聞く楽しさを味わう。 ■自分の思いをわかるように伝えようしたり、相手の思いにも気付いたりする。 ■先生に支えられて思いを伝え合うなかで、自分とは異なる考えがあることに気付く。		○気の合う友達と一緒に遊ぶことを通して友達のよさに気付く。 ■友達と心を動かすできごとを共有したり、思いや考えを伝え合うことで、友達のよさに気付く。 ■友達や年長児の様子を見て真似たり、やり方を教えてもらったり、刺激を受けながら遊ぶことを楽しむ。 ○遊びや生活のなかできまりやルールがあることに気付く、守ろうとする。 ■先生や友達と決まりやルールを守ると生活が心地よかったり、楽しく遊べることに気付く行動する。			○友達といろいろな遊びを楽しむなかで、新しいやり方や考えにふれ、みんなと一緒に楽しいと感じる。 ■友達との遊びを楽しむなかで、相談したり、譲り合ったりする。 ■困っている友達がいると、声をかけたり、先生に伝えたりする。
環境			○園庭の落ち葉、小さな草花や実、虫など春の自然に心を動かし、美しさ、面白さ、不思議さに気付く。【新入児】 ■色や形の美しさ、不思議さを感じながら草花や実、落ち葉を集める。 ■先生と一緒に虫を捕まえたり、その形や動きを不思議に思いながら見たりする。 ○自然や様々なものに触れて遊ぶ楽しさや、その性質や仕組みを知る楽しさを感じる。 ■身近な自然物や生き物に触れながら春の季節の心地よさを感じる。 ■砂、土、水などの感触を味わいながら自分なりに試したり、発見したりして遊ぶ。 ■身近にある遊具や素材を使い、試したり、作ったり、作った物で遊んだりする。		○自然などの身近な事象に関心をもち、自分なりに関わろうとする。 ■雨や風、砂や土、夏の草花、虫などを、見たり、触れたり、聞いたり、感じたりする。			○身近な動植物など命あるものへの関わり方に気付く。 ■小動物を飼ったり、花や野菜を育てたりして、大切にしようとする。 ○いろいろな国の国旗に親しむ。 ■運動会などの行事で国旗に触れたり、作ったりして、国旗に親しみをもち、		○秋の自然物や様々な素材などに関わっ遊びをなかで、数や形、大きさに興味をもって遊ぶ。 ■木の実や色づいた葉を集めて遊ぶなかで、数や形、大きさに興味をもち、数えたり、比べたりして遊ぶ。  ○遊びや生活のなかで簡単な標識や文字などに関心をもつ。 ■必要性に応じて、文字や標識を遊びに取り入れて遊ぶ。			○冬から春への季節の移り変わりとともに、自分達の生活に変化があることに気付く。 ■冬の寒さや太陽の暖かさを感じながら戸外で遊んだり、畑に植えた野菜の生長を喜んだりする。
	言葉	○先生やまわりの友達の言葉に興味をもち、親しみをもち聞いたり、話したりする。 ■先生や友達の話に興味をもち聞いたり、絵本や紙芝居を見たりする。 ○先生や友達に進んで挨拶をする。 ■自分から挨拶をする。 ■挨拶によって自分も相手も心地よくなることに気付く。		○友達や先生に自分の要求を言葉で伝えたり、わからないことは言葉で尋ねたりする。 ■自分の思いや考えを言葉で相手に伝えたり、受けとめたりしながら遊ぶことを楽しむ。 ■わからないことを、自分なりの言葉で尋ねようとする。 ■友達の考えを聞いたり、自分の思いを伝えたりし、友達の思いに気付くこととする。			○思ったことや感じたことを、友達にわかるように伝えようとする。 ■思いついたことや考えたことを、友達や先生に伝えるように話したり、知らせたりする。		○友達や先生と思いを伝え合うなかで、人の話を注意して聞き、相手にわかるように話す必要性に気付く。 ■自分の思いや考えを言葉で相手に伝えようとする。 ■生活に必要な言葉の意味や使い方がわかる。 ○いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。 ■遊びや生活、絵本に親しむなかで、言葉の楽しさや美しさに気付く、イメージや言葉を豊かにする。 ■絵本や紙芝居の世界で想像をする楽しさを味わいながら、様々な言葉に興味や関心をもつ。			○絵本や物語の世界に入りながら様々な言葉に興味・関心をもつ。 ■自分の思ったことや感じたことなどを、イメージを広げ工夫して表現したり、なりきったりすることを楽しむ。	
表現		○生活のなかで様々な音や形、色、手触り、動きなどに気付いたり、不思議さを感じたりする。 ■園庭の自然物や砂や土の形や色、感触、変化の様子などに心を動かしながら遊ぶ。 ■様々な遊具や素材に親しみ、形や色などを工夫しながら作ったり、描いたりする。		○感動したことを友達や先生と伝え合う楽しさを味わう。 ■心が動かされたことを友達や先生と言葉や表情、動作などで伝え合う。			○自分のイメージをいろいろな方法で表現しようとして工夫したり、試してみようとしたりする。 ■土団子や色水など年長児や友達が見ているのを見て、イメージに合った物を作ろうと自分なりにやってみようとする。 ■自分のイメージを表現するために、様々な素材や道具などから、必要な物を選んで、工夫して作る。		○先生や友達と一緒に、歌ったり、簡単なリズム楽器で遊んだりする楽しさを味わう。 ■友達やクラスのみんなと心合わせて歌ったり、楽器を鳴らしたりする。 ○友達と一緒に、かいたり、つくったりすることを楽しむ。 ■友達とイメージを伝え合いながら、必要なものをかいたり、つくったりすることを楽しむ。			○お話の世界で自分のイメージを動きや言葉などで表現する楽しさを味わう。 ■友達と一緒に、ごっこ遊びや劇遊びで好きな役になって、表現することを楽しむ。	

資料③

2, 3年保育 年長組 教育課程

月	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3	
期	1		2			3		4			5	
子どもの姿 よく見られる この期に	幼稚園で一番大きくなった喜びを感じて		友達と思いや考えを出し合って			友達と共通の目的をもって		みんなで力を合わせて			自分達で遊びや生活を展開していく	
	自分の生活する場所を整えたり、小さい組の世話をしたりする。また、ウサギの世話や誕生会の司会など活躍する場面が増え、責任や喜びを感じる。気の合う友達と誘い合って、今まで楽しんできた遊びを繰り返し楽しむ。そして、年長ならではの遊具や道具、素材で遊ぶことを楽しむなかで年長組になった喜びをもち、はりきっている姿が見られ、いろいろな人との関わりが増えてくる。		気の合う友達と思いや考えを出し合いながら、自分達で遊びを進めていこうとする。自分の思いや考えを実現したくて、いざこざになることもある。友達がしていることが刺激となって、少し難しそうなことや苦手なことにも挑戦してみようとする。みんなで行動する時、自分はどうしたらよいかを自分なりに考えようとする。			いろいろな友達を誘い合って遊びを楽しむなど、友達関係に広がりが見られるようになる。また、仲間意識が強くなり、チームで競い合う遊びを通して、勝った喜びや負けた悔しさなどの気持ちを言葉や態度で表現する。人数が多くてルールを守って遊ぶことを楽しむ。そのなかで自分の得意なことを発揮して遊ぶ姿が見られる。友達の考えも受け入れて遊ぶ楽しさがわかり、友達と一緒に共通の目的をもって遊ぶようになる。友達同士で思いや考えを言葉で伝え合い、必要に応じてルールをつくり変えたり相談したりして進めていくようになる。		クラスや学年で共通の目的に向かって、話し合ったり、教え合ったりして、みんなで力を合わせて見通しをもって活動することが楽しくなる。友達の良いところがわかり、相手の気持ちにも合わせて行動しようとする。			友達と一緒に共通の目的をもち、考え合ったり話し合ったりして活動を進め、充実感を味わう。卒園に向けての行事や生活などを進めていくなかで、大きくなったという喜びや自信をもち、自分の力を発揮するようになる。小学校進学を意識し、入学への期待を抱きながら、残りの園生活を楽しむ。	
5つの領域におけるねらい・内容	健康	○年長組になった喜びや自覚をもち、進んで園生活に取り組む。 ■生活に必要なルールや道具の置き場所などを自分なりに考える。 ■新入園児に関心をもって関わったり、見通しをもって最後までやろうとしたりする。 ○食べ物に興味や関心をもち、食べ物大切に気付く。 ■植物の生長を楽しみにしながら、世話をする。	○園生活における大まかな見通しをもち、活動に取り組む。 ■時間の流れや場の使い方を見通し、自分から行動する。	○体を動かす楽しさを味わい、いろいろな場面で進んで体を動かそうとする。 ■もっと上手になりたいなどの願いをもって、根気よく挑戦する。 ■友達といろいろな遊び方を考えたり、競ったり、自分達でダンスをしたりするなど体を動かすことを楽しむ。	○身近な自然、社会事象に関心をもって関わり、責任をもって行動する。 ■病気の予防策について知り、意識して生活しようとする。 ■交通安全の習慣や災害時などの行動の仕方を理解し、安全に気をつけて行動する。 ■園内の危険な場所や遊び方などの気付きを伝え合い、安全に行動しようとする。	○自分達で生活の場を整えながら、見通しをもって行動する。 ■友達と協力したり相談したりしながら、自分達で気付き、行動する。 ○しなければならぬことを自覚し、自分の力で行動する。 ■考えたり、工夫したりしながら、あきらめずにやり遂げようとする。						
	人間関係	○友達と思いや考えを出し合って遊んだり、いろいろなことに一緒に挑戦したりする楽しさや充実感を味わう。 ■友達や先生に励まされながら、これまで少し難しかったことやあまり経験のなかった活動にも根気強く取り組もうとする。 ■友達とアイデアを出し合いながら、遊びの場や必要な道具を作ったり、ルールを決めたりして遊びを進める。 ○生活に必要な約束事や取り組み方を考え、行動しようとする。 ■クラスや園全体の共有の遊具や用具を安全に気をつけて大事に使ったり、見通しをもって片付けたりする。	○友達と積極的に関わり、様々な感情を味わうなかで、相手の気持ちも考えながら、自分の気持ちを伝える。 ■考えを出し合って遊ぶなかで、友達の考えに共感したり受け入れたりする。 ■友達と思いや考えがすれ違った時には、気持ちを立て直したり、どうしたらよいか考えたりしようとする。 ○大勢の前で司会や当番活動など経験するなかで、様々な感情を味わう。 ■友達と息を合わせたり、緊張しながら最後まで役割を果たそうとする。	○友達によさに気付き、互いのよさを生かしながら共に活動する楽しさを味わう。 ■友達と共通の目的に向かって、互いに得意なことや知恵を出し合い、心を合わせて遊ぶことを楽しむ。 ○地域の人々など自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみ、感謝の気持ちをもつ。 ■街路市での買い物や餅つきなどの行事を通して、地域や他校の人と関わり、一緒に取り組む。 ■お世話になっている家族や地域の人に感謝の気持ちや思いを言葉などで表現し、伝える。 ■祖父母に思いを巡らせて、感謝の気持ちを絵手紙などで伝える。 ○見通しをもって生活し、やらなければならないことを集団のなかで意識する。 ■友達と一緒に必要なきまりを考えたり、守ったりして見通しをもって行動する。 ■言うてはいけないことややしてはいけないことに気付き、自分の行動を振り返り、相手の思いを考えて関わろうとする。	○友達と関わりを深め、思いやりをもつ。 ■いろいろな友達と関わるなかで、自分とは違う相手の思いに気付き共感したり、思いやりのある行動をしようとする。 ○自分の考えを出したり、友達の考えを取り入れたりしながら、みんなで力を合わせて遊びを進める楽しさを味わう。 ■友達と考えを出し合い、協力しながら遊びにふさわしい場や必要な物を作るなど、遊びを面白くする工夫をする。	○共通の目的に向かって、友達と一緒に新しい考えを生み出す楽しさや喜びを味わい、充実感をもってやり遂げようとする。 ■自分の気持ちを調整し、友達と折り合いをつけながら遊びや生活を進めていく。 ■互いのよさを認めながら、教え合ったり助け合ったりする。 ○学級や学年のみんなで共通の目的をもって話し合ったり、役割分担をしたりしながらやり遂げる喜びを味わう。 ■様々な行事に、学級や学年で積極的に取り組む。						
	環境	○自然や様々なものに関わって遊ぶなかで、性質や仕組みに興味をもつ。 ■身近にある素材や遊具の特徴や仕組みに気付いて生かしたり、工夫したりして遊ぶ。 ○春の自然に興味や関心をもち、好奇心や探求心をもつ。 ■自然物の形や色などを生かして、遊ぶことを楽しむ。 ■小動物を工夫して捕まえ、図鑑と比べながら見たり、適した飼いや方を考えたりする。	○身近な動植物に親しみや興味をもって関わるなかで、命の大切さに気付く。 ■小動物や野菜、花などに興味をもって関わるなかで命の大切さに気付き、愛情をもって世話をする。	○物の性質や数量などに関心をもち、生かして遊ぼうとする。 ■これまでの経験から、いろいろな性質や仕組みを思い出し、比べたり、関連付けたりして遊ぶことを楽しむ。 ■数や数量、形を生かして、遊びに取り入れる。 ○行事等で国旗に親しんだり、我が国の文化や伝統に親しんだりする。 ■運動会で国旗や園旗を揚げたり、世界の旗を見たりする。	○幼稚園内外の様々な環境に関わるなかで、遊びや生活に必要な情報を取り入れる。 ■地域の街路市や公共施設、大学の先生から知り得た情報などを、伝え合ったり、遊びに取り入れられたりする。 ○日本の伝統に興味をもつ。 ■餅つきや大掃除をしたりして正月の雰囲気味わう。	○日常生活や遊びのなかで時間や数字などに興味や関心をもつ。 ■時計やカレンダーなどを見て生活を進めたり、遊びに取り入れられたりする。 ○これまでの経験を生かし、生命の不思議さや尊さを知り、命ある身近な生き物をいたわり大切にすること。 ■動植物の世話や自分達の育ててきた生き物など年中組の友達に引き継ぎ、大切にすることを覚える。						
	言葉	○先生や友達の話を注意して聞いたり、相手にわかるように話したりすることで、伝え合う喜びを味わう。 ■自分なりの言葉で思いや考えを伝えようとするとともに、相手の言葉や様子からその思いや考えに気付く。 ○まわりの人に親しみをもち、場にふさわしい挨拶を進んで進める。 ■幼稚園や地域の人などに、進んで挨拶をする。 ■来園者に自分達の遊びの説明をする。	○言葉に対する感覚を豊かにし、喜んで表現しようとする。 ■様々な体験から積み重ねたイメージを、言葉で表そうとする。 ■生活を通して言葉の楽しさや美しさに気付き、使ってみようとする。	○物語などに親しみ、興味をもって聞いたり想像したりする楽しさを味わう。 ■自分の体験と物語の内容を結びつけて聞いたり、考えたりする。 ■登場人物などの思いや考えを感じながら物語を聞き、場面の様子やストーリーの展開を想像する。 ○日常生活で文字などが役立つことに気付き使おうとする。 ■遊びの中で必要性を感じて、自分の思いや考えを言葉や文字などで伝えようとする。	○言葉の楽しさや相手を思いやる言葉の美しさに気付き、使ってみる。 ■相手の気持ちを考えてその場の状況に応じてふさわしい言葉を使う。	○友達や先生の言葉や話をよく聞き、自分の経験したことや考えを伝えるなかで心を通わせる。 ■相手の表情や行動を読みとりながら話を聞いたり、自分の思いを伝えたりする。 ○大きくなった喜びや誇りをもち、感謝の気持ちを伝える。 ■感謝の気持ちを込めて、保護者やお世話になった方にお礼の手紙を書き(描)いたり、言葉で伝えたりする。						
表現	○感じたこと、考えたことなどを、多様な方法で表現しようとする。 ■自分の作りたい物にぴったりの素材、道具などを選び、工夫して遊ぶ。 ■感じたこと、イメージしたことを、音や動きで自由に表現する。	○感じたことや考えたことを工夫して表現しようとする。 ■遊びの中で必要になった物を、形や色にこだわって、音や動き、絵や製作など多様な方法で表現する。	■友達と一緒に振りやポーズやかけ声などを考えたりし、自分達で1つのものを作りあげていくうれしさや難しさ、喜びを感じる。 ○自分の好きな動きを取り入れながら、友達と一緒にダンスを踊ったり、かけ声を合わせたりする。	○曲想を感じとり、友達やクラスみんなで心を合わせて合奏や歌などで表現することを楽しむ。 ■様々な楽器の楽しさを知り、友達と一緒に工夫して鳴らすことを楽しむ。 ■曲の楽しさを感じ取り、クラスのみんなで合奏したり、合唱したりすることを楽しむ。	○今までの経験を生かし、表現するために必要なことを考えながら、表現する楽しさを味わう。 ■クラスみんなでイメージを共有し、動きや言葉、音、歌など、工夫合って表現する楽しさを味わう。 ■人に見てもらい喜びを感じながら、表現することを楽しむ。 ■自分の表したいことを様々な方法で表現したり、友達の表現したいことに気付いたりして表現することを楽しむ。							

## Ⅶ 研究のまとめと今後に向けて

本年度の研究で明らかになったことや、3年間取り組んだことで付随的に見えてきたことについて述べたい。

### 主体的・対話的で深い学びを実現する環境構成と教師の援助とは

#### 自由度の高い環境とイメージを引き出す援助

4歳児うめ組の運動遊びの事例では、主体的な学びにつなげるために、運動用具（平均台、バランスボードなど）の組み合わせを自分達で考えたり、自分で運動の場を選んで取り組んだりすることができるように提案していた。子どもは自分達で場を作り、好きな場を選んで、動きを工夫しながら繰り返し取り組んだり、動物をイメージしていろいろな動きをしたりするなど、主体的に運動遊びに取り組んでいた。おとなしく恥ずかしがり屋の子どもが、終始笑顔で、どきどきワクワクしながら取り組んでいる様子が窺え、教師が用意した場ではなく、自分で考え、自分で選び、自分で工夫することができる自由度の高い環境であったことが心を揺り動かし、主体的に遊ぶ姿につながったと思われる。

一方、教師は動物のイラストカードを提示する際、「ジャン」とクイズのような言葉がけをしたが、「動物園に行こう」などと子ども達のイメージをふくらませ、楽しい表現につながるような言葉がけが必要であったと反省している。集団活動での言葉がけは、集団を動かそうとするあまり、教師の願いが前面に出すぎたり、管理的になりすぎたりするきらいもある。今回の運動と身体表現が合わさったような遊びの場合は、特に子どもと想像の世界を共に楽しみ、子どもの様子に応じて柔軟に「大きなワニがいました」など、イメージを引き出す援助が大切であることがわかった。

#### 保育展開を具体的にイメージして

5歳児はと組の製作遊びの事例では、子どもは用意されていた恐竜の型の曲線や細かい部分を集中して切ったり、あらかじめ指定されていた場所に穴を開け割りピンを入れたり、友達と同じ物を作ったり、できあがると「先生、見て」と喜んだりするなど、一見すると「主体的」に製作遊びに取り組んでいるように見えた。しかし、教師の願いは、自分で考えたり工夫したりしてオリジナルの動物を作ることや、作った物で思いや考えをやり取りすることであり、教師の願いと実際の子どもの姿がずれていた。

原因は、子ども達が困らないようにと用意した様々な恐竜の型や穴を開ける場所の指定が、子どものイメージを限定し、自由度が低くなり、作ったことには満足したものの、年長らしい工夫や試行錯誤（【主-1】）、イメージしたこと、考えたことのやりとり（〈ソ〉気持ちや考えのやりとり）につながらなかったことにある。

この事例を通して割りピンのように新しい遊びを提示する際には、その遊びや教材の特性、5歳児の楽しみどころ、チャレンジしたくなるどころ、試行錯誤しながら目標に向かうところなどを具体的にイメージしながら、保育展開を考えることが大切であることがわかった。また、作った物で友達と対話しながら遊ぶ姿につながるように、ペープサートのように裏面にストローを付けて動かすように提案したり、草むらを付けた舞台を用意したりするなど、子どものイメージを引き出す仕掛けを提案することが必要であることもわかった。

## 教材観を明確にもつ

3歳児もも組の製作遊びの事例では、一度見た作り方を思い出しながら、試行錯誤を繰り返し、見本とは異なるチョウチョを作った子どもに対して、作り直しを提案した教師の援助について考察した。できあがったチョウチョを動かす際に自分の腕と頭も同時に上下させながら、満足そうに動かす子どもの姿や、見本とは異なっていることをわかったうえで「反対のチョウチョ」とニコニコと見せる別の子どもの姿を動画で確認した時、「自分の好きな物をストローに付けて手に持って動かす」こと自体が楽しいことがわかった。また、動画を通して、子どもなりに苦心して自力で作っていた物であることを知っていれば、作り直すように勧めなかっただろう。集団活動では、子ども一人一人の思考の流れやどこに楽しさを感じているのかを捉えることは難しい。しかし、自分で遊びを選ぶ時間でも集団活動の時間でも、教材のどこに楽しさを感じているのか、面白さを見出しているのか、それによって何を経験させたいのかといった教材観を明確にもっていないと、適切な援助ができず、子どもの主体性を損なうことにもつながりかねないことがわかった。

## 主体的・対話的で深い学びを実現する保育の振り返りとは

### 保育を振り返る方法

1年次は、それまで取り組んできた4つの振り返り（「記録、週日案の作成」「研究保育」「ドキュメンテーションの作成」「月別指導計画の修正」）の内容を見直し、保育の振り返りをブラッシュアップさせた。また、2年次、3年次にかけて、教育課程を再編成し、教育目標についても見直した。これらの取り組みは、「どのような子どもを育てたいのか」「どこを目指しているのか」といった保育観を教員が共通にもつために、また子どもの内面を理解することの重要性を再確認するために必要な取り組みであった。

2年次、3年次には、保育場면을撮影した動画を基に、子どもの姿をシートに丁寧に記録し、環境構成や教師の援助について振り返る手法を取り入れた。これまでの研究事例は記憶に頼っており、記憶が果たして正確なのか、教師の思い込みによるものなのか定かではないので、正確に子どもの内面を理解したり、主体的・対話的で深い学びを実現する教師の援助について振り返ったりするために取り入れた手法である。

2年次は、「好きな遊び」の時間の教師と子どもの自然な関わりを撮影することで、瞬時に子どもの内面をどう捉え、どのように援助をしているのか、根底にある保育観はどのようなものかについて振り返るには、適した手法であったと思われる。

3年次は、「集団活動」という設定した場면을撮影することで、集団に向けて教師が発している言葉を子どもがどのように受けとめているか、子どもの思考の流れはどのようになっているのか、主体的・対話的で深い学びは得られているのかどうかを振り返るためには、適した手法であったと思われる。

### 教師の意識や保育の変容

3年間の研究を振り返るアンケート結果には、以下のようなものが挙げられた。

- ・子どもの行動のよしあしに目が行きがちであったが、何を楽しんでいるのかを見取る力がついてきた。
- ・研究保育や研究協議の学びを生かして、分析シートから子どもが楽しんでいることや経験していることを読みとる力がついてきた。

- ・子どもと一緒に遊びながら、何を感じ、どこを面白がっているのかといった子どもの内面を捉えようとすると、見れば見るほど遊びが面白く、時間の流れがゆっくり感じ、子どもが遊びに没頭する気持ちがわかった。
- ・前日の子どもの姿をふまえて、予想される子どもの姿が的中することが多くなったことから、子どもの内面を理解する力がついてきたように思う。
- ・どのような場面で主体的・対話的で深い学びになっているのか、具体的な子どもの姿として考えるようになった。
- ・今まで以上につぶやきに耳を傾けたり、内言語を考えたりするようになり、環境構成や援助につながるようになってきた。
- ・保育動画を活用した協議を行ったことで、自分の思い込みや固定観念があったこと、保育の癖に気付くことができた。
- ・子どもの力を信じ、子どもに任せるといった、環境構成の引き算の大切さが分かった。
- ・子どもの姿や教師の願いに応じた教材研究の必要性を痛感した。
- ・子どもが気付いたこと、発見したこと、面白がっていることを言葉にして丁寧に返すことを心がけるようになった。

以上のことから、3年間の研究の取り組みが教師の意識や保育実践に変容をもたらし、振り返り方法が有効であったことが窺える。また、研究テーマに向かって様々な方法で保育を振り返ってきたことで、「主体的・対話的で深い学びとは何か」、「何をもって学んでいると捉えるのか」が、ねらい・内容、5領域、幼児期の終わりまでに育って欲しい姿（10の姿）に加えて、保育を振り返る際の大事な視点の1つとなっていることは大きな成果である。

## 研究方法に集団活動を取りあげることで見えてきたこと

### 好きな遊びと集団活動を相互に補完する

5歳児はと組の研究事例では、割りピンを使った1回目の集団活動での製作（ワニ作り）後、好きな遊びの時間にも経験できるように環境を整えたことで、自分の作りたい物を作ったり、面白い動きができたと教師に報告したりするなど、生き生きとした表情が見られている。集団活動で仕掛けのある製作の面白さに気づき、好きな遊びの時間で仕掛けを生かして自分なりに工夫して遊んだ姿は、集団遊びの時間内だけでは得られにくい工夫や試行錯誤を、好きな遊びの時間内に経験していることになる。

5歳児さくら組のリレー遊びの事例では、集団活動として学年で行ったリレー遊びを基に、教師の願いと子どもの姿がすれ違っていたことがわかり、運動会後も好きな遊びの時間にリレー遊びをし、丁寧に関わっていくことで、自分達が経験したことや学んだことを生かしながら遊びを進めていく姿が見られている。集団活動だけでは経験できなかったことを、好きな遊びによって補ったとも考えられる。考察では、学年2クラスでリレーを行う前に、好きな遊びの時間にたっぷりリレー遊びをしておくべきだったと反省が述べられている。ルールや勝敗が明確にあり、子どもの運動への意欲や走力の差が大きい遊びにおいては、好きな遊びの時間に、子ども達を順番に誘っていき、バトンを渡したり、もらったりして走る楽しさを経験してから、集団活動としてリレー遊びをした方が望ましかったと言える。

以上のように考えてくると、好きな遊びと集団活動は、互いに関連し合っ



どもの学びを深めるといった、補完する関係にあることがわかる。好きな遊びだけでは子ども達一人一人の経験値が異なり、学びの基礎となる知識、技能が身につかないことも考えられる。逆に時間に制約のある集団活動だけでは、子どもがまわりの環境に自ら関わるなかで、時間をかけて考えたり、工夫したり、試行錯誤をしたり、表現をしたりするなど、思考力、判断力、表現力の力は培われにくい。

これまで担任裁量で行ってきた集団活動を、昨年度から、運動、表現（絵、製作、ダンスなど）を計画的に取り入れるようになり、行った内容も次年度以降の参考に記録として残すようにしてきた。今後、これまでの集団活動の記録を基にさらにブラッシュアップさせ、好きな遊びと集団活動が往還し、互いの活動が豊かになるような保育を目指していきたい。

### 誰のための何のための壁面飾りか

3年間の研究を通して副産物的に学んだことは、壁面飾りが「子どもの作品を飾って終わり」になっ  
てはいけないということである。作って、飾って、終わりではなく、壁面と普段の遊びが往還するよ  
うな製作物であったり、壁面構成であったりすると、子どもの学びになるのではないかと考えた。

今年度4歳児クラスでは、集団活動で作った牛乳パック製のカエルを、教師があらかじめ作って壁  
面に貼り付けたカエルの家に入れて、好きな遊びの時間に取り出して遊べるようにしていた。5歳児  
はと組の研究事例でも、恐竜を戻す家を壁面に貼り付けていた。3歳児もも組の研究事例では、作っ  
たチョウチョを持って、教師と一緒に玄関や遊戯室へ遊びに出かけるようにしていた。このように、  
壁面飾りが子ども達の遊びにつながる環境構成や保育展開となるように考えられており、教師の意識  
が変わってきたことが成果である。

### 「振り返り」について見えてきたこと

#### 振り返ることで何が得られるのか

この3年間、様々な切り口で「振り返り」について考察を深めてきた。本研究前も、週日案や記録  
などで、振り返りを行ってきたが、ともすると独りよがりな振り返りになり、客観的に自分を見つめ  
直すことが難しかったように思う。月別指導計画の振り返りを園内研として月に一度行ったり、ドキュ  
メンテーションを作成したりするなかで、各教員の子どもを見る目に変化してきた。職員朝礼で各ク  
ラスよりその日の保育内容を説明する際に、活動名や予定に終始していたのが、「前日に子どもが楽  
しんでいたことはこういうところで、だから今日はこんな環境を用意し、このように関わっていきた  
い」といった発言に内容が変化してきた。

2年次には、子どもが遊びを選択し活動を展開していく好きな遊びの場面、3年次は集団活動の場  
面で、自分の関わりや子どもの姿を動画で見て分析し、協議する方法で振り返った。保育中は点と点  
でしか見ることができない子どもの姿が線としてつながり、子どもが何を思い、どんなふうに考え、  
行動しているのか、その思考の流れが明らかになった。各教員はこれまでの自分の子ども理解が浅い  
ことに気付き、これまでより、子どもの姿をよく見てその内面を捉えようと試みるようになった。ま  
た、そう意識せずにかけた子どもへの言葉や関わりの中に、教師の保育観が内包されていて、動画  
を見て協議をすることで無自覚であった保育観が明らかになることもあった。

振り返りを組織的に行うことで、行動レベルで捉えるのではなく、その行動の裏で子どもがどんな  
思いでいるのか、何を楽しんでいるのか、何を戸惑っているのかなどを捉える力や自分の保育観を振  
り返る力が得られることが見えてきた。

### どのような振り返りが有効か

2年次から、振り返りに保育場面の動画を活用したが、動画に映し出される子どもの姿を全教員で視聴し協議したことで、見えていなかった子どもの内面や、保育をするうえで大事にしなければならないことに気付くことができた。3年次は、子どもの姿や教師の関わりを分析シートの「子どもの姿」に逐一記録する方法（逐語録）で記載し、その姿一つ一つに子どもの内言語を記載し、主体的・対話的で深い学びを考える振り返りを行った。10分ほどの場面でも、逐一記録するには大変手間がかかったが、この方法は子どもが何を楽しいと思っているのか、何を考えているのか、友達のだのような言葉に心を動かしているのかなど、つぶさに捉えることができた。

振り返りに動画を活用すること、動画を基に協議をすること、逐語録を作成して環境構成や援助を振り返ることは有効な手段であった。本年度、このテーマによる研究は一旦終わるが、保育の質を上げていくためには、普段行っている記録、週日案の作成、月別指導計画の見直しに加え、園内研に動画視聴や逐語録を取り入れていくと教師の力量は高まるだろう。ただ、業務量が増えると負担になることもあるため、取り組み内容や方法については検討しながら実施していかなければならない。

### そもそも振り返りは必要か

子ども達が帰った後の時間はあつという間で、保育の振り返りに多くの時間を割くことは難しい。また、振り返りにより、即、自分の保育が変わるのであれば振り返りの手応えを感じるが、保育観がすぐに豊かになったり、子どもの内面を捉える力がすぐに身についたりすることはない。そのため、時に振り返りの必要性を問いたくなることがあるのではないだろうか。しかし、本研究で保育の振り返りの一端を記載したが、日々、子どもの姿を思い起こして自省し、時には動画を見て自分の保育を客観的に振り返り、他教員の意見に耳を傾け、1つずつでも環境や援助を変えていこうとする時、保育は変わり、保育の質は向上する。本園では3年間の研究を通して、教員の意識はずいぶん変容し、教育目標に根差した保育について改善したいという意欲が増している。今後も真摯に互いの実践について振り返り、仲間と共に保育を楽しんでいきたい。

以上、現テーマでの研究は一旦幕を下ろすことになるが、3年間でブラッシュアップされたPDCAサイクルを基に、日々子どもが何を学んでいるのか、何を学ばなければならないのか、そのためにはどのような保育のあり方が求められているのかを考え続けていきたい。

## 参考資料

本園の考える主体的・対話的で深い学び

### 本園の考える「主体的に学んでいる子どもの姿」

【主－１】物事に夢中・没頭、試行錯誤をしている姿

【主－２】「こうしたい」、「こうなるといいな」等の目的（イメージ・見通し）をもって、人、もの、ことに能動的に関わる姿

【主－３】何が自分にとって正解かを考え、自分なりに選んだり、表現したりする姿

キーワード

〈ア〉集中・没頭 【主－１】

〈イ〉試行錯誤 繰り返す 【主－１】

〈ウ〉イメージ・見通しをもつ 【主－２】

〈エ〉自分から進んで 【主－２】

〈オ〉挑戦

〈カ〉選択 【主－３】

〈キ〉興味・関心

〈ク〉賞賛

### 本園の考える「対話的に学んでいる子どもの姿」

【対－１】あなたはどうしたいのか、どう思ったのか、どうしたかったのか聞こうとする姿

【対－２】ものと対話しながら、使っている、試行錯誤している姿

【対－３】友達や先生の思いや考えを理解しようと聞き、自分なりに考えたことを返す姿

【対－４】自分の目的（疑問・解決したいこと）に向かって、友達や先生に質問する姿

【対－５】友達と目的を共有しながら、どうすることが一番よい方法か考えを出し合う姿

【対－６】互いに知恵を出し合いながら、ルールや遊び方を生み出す姿

キーワード

〈セ〉他者理解 【対－１】

〈コ〉友達・ものと試行錯誤 【対－２】

〈ソ〉気持ち・考え（・イメージ）のやり取り 【対－３】

〈ケ〉不思議や疑問を解き明かす 【対－４】

〈サ〉共通の目的 【対－５】

〈シ〉ルールや遊び方を生み出す 【対－６】

〈ス〉発見・気づきを伝える

〈タ〉共に喜ぶ

### 本園の考える「深い学びにつながっている子どもの姿」

【深－１】ものと試行錯誤しながら段々上手になっていく、自分のものになっている姿（ものの性質や特徴への気づき）

【深－２】これまでの経験を足場に考え挑戦する姿

【深－３】いろいろな経験、情報を関連させて試行錯誤をするなかで、新たな考えを生み出したり、行動を変えたりする姿

キーワード

〈チ〉性質や仕組みに気付く 【深－１】

〈ツ〉自分のものにする 【深－１】

〈テ〉今までの経験をもとに挑戦する 振り返る 【深－２】

〈ト〉関連付け 【深－３】

〈ナ〉自分の考えや行動を広げる・変える 【深－３】



### ご指導いただいた先生

全国幼児教育研究協会顧問 岡上直子先生

### 共同研究者

高知大学教育学部 教授 玉瀬友美先生

### 研究同人

宮田信司	中山美香	鎌倉正子
矢田崇洋	岡谷里香	藤戸綾香
大西美玲	中城亜紀	本田史子
島村吏香	岡林雅子	黒田沙織
梶原佑佳		

### 研究協力者

山本里奈 近藤啓二 宮藤良夫

## 主体的・対話的で深い学びを実現する 保育の振り返りと実践のあり方－3年次－

令和3年度

発行日 令和4年1月20日

編集・発行 高知大学教育学部附属幼稚園

郵便番号780-0915 高知市小津町10-26

TEL 088-822-6417 FAX 088-822-6412

ホームページ <http://www.kochi-u.ac.jp/kinder/>